

YAYOI

自動壁紙糊付機械

AQUA COATER BOSS

アクアコーター・ボス

取扱説明書

安全のためご使用前に必ずお読み下さい



このたびは、当社壁紙自動糊付機械『**AQUA COATER BOSS**』をお買い上げいただき誠にありがとうございます。

ご使用に際し、事前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、十分ご理解いただいた上でご使用ください。ご不明な箇所がありましたら、巻末に記載しました当社の連絡先までお問い合わせ願います。

なお、この取扱説明書はいつもお手元に保管され、ご利用いただきますようお願い申し上げます。

 **ヤヨイ** 化学工業株式会社

お使いになる前に

●本機をご使用になる前に、下記の梱包内容がすべて揃っていることをご確認ください。

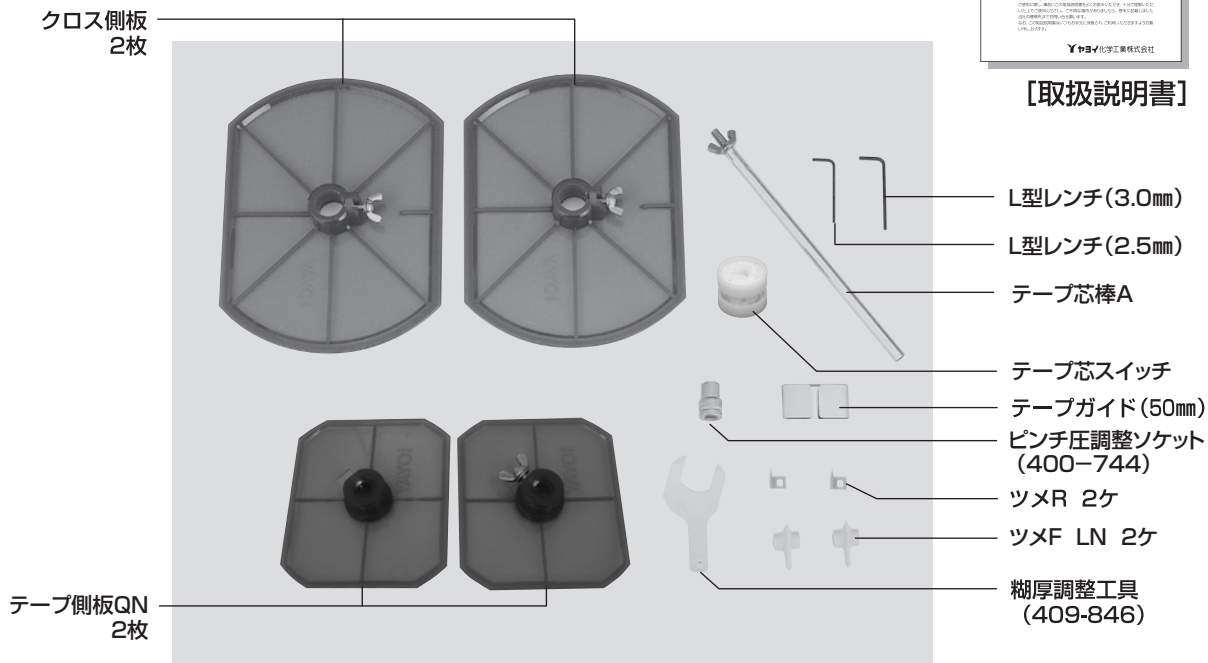
AQUA COATER BOSS

アクアコーター・ボス

商品番号 403-520 AQUA COATER BOSS

- 1 糊付機械・本体
- 2 スーパーナイフスリッター
- 3 コントローラー
- 4 クロス芯棒
- 5 NEWテンションバー1,2
- 6 テンションバー3
- 7 取扱説明書（本書）・付属品
- 8 保証書

[付属品]






[取扱説明書]

目次





1	取扱い上のご注意	4
2	各部の名称	7
3	機械のセット	
	脚・テンションバー	11
	本体・コントローラー	12
	スリッター	13
4	作業準備	
	クロス原反のセット	14
	カットテープのセット	15
	糊の供給・糊厚の調整	16
	ツメ位置の調整・裁断幅の調整	17
5	糊付作業手順	
	クロスの通し方	18
	NEW テンションシステム・壁紙裏面検尺機構・糊付け作業	19
	ウェイトローラー	20
6	コントローラーの操作方法	
	操作スイッチ	21
	操作パネル	22
	操作方法	23
7	本体部の掃除・手入れ	33
8	機械の調整・点検	35
9	スリッター刃物の交換方法	36
10	本体センサー基板の反転	38
11	故障かな?と思ったら	39
12	別売オプション	41
13	仕様	42

自動壁紙糊付機械をご使用いただくには、正しい取扱いと定期的な保守・点検が不可欠です。本文をよくお読みいただき、十分にご理解された後、糊付作業ならびに保守作業を行ってください。

この取扱説明書では、誤った取扱いをしたときにおよぼす危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

-  **警告** …………… この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人身事故につながる恐れのある内容を示しています。
-  **注意** …………… この表示を無視して、誤った取扱いをすると、機械の破損・故障につながる恐れのある内容を示しています。
-  **メモ** …………… これを知っておくと便利という内容を示しています。

警告

-  **プラグを抜く**
煙が出ている、変な臭いや異音がする等の異常状態のまま使用すると、火災・感電等の原因となります。すぐにコントローラーの電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
-  **プラグを抜く**
作業終了後は、コントローラーの電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
-  **分解禁止**
コントローラーを分解したり、改造したりしないでください。感電・故障等の原因となります。内部の点検・修理は、当社各営業所に依頼してください。
-  **水ぬれ禁止**
コントローラーに水が入ったり、濡らさないようにご注意ください。火災・感電・故障等の原因となります。屋外での使用や機械の洗浄時等は、特にご注意ください。
-  **禁止**
電源コードの上に重いものを載せたり、コードが機械の下敷きにならないようにしてください。また、電源コードを引っ張られないようにしてください。コードに傷がついて火災・感電等の原因となります。
-  **警告**
電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線等）、当社各営業所に交換修理を依頼してください。そのまま使用すると、火災・感電等の原因となります。
-  **禁止**
電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。また、電源コードの差込口には過度の負荷をかけないでください。コードや差込口が破損して火災・感電等の原因となります。
-  **警告**
糊付機械作業中は、ローラーやギヤ等の間に指をはさまないように十分注意してください。
-  **電源OFF**
コントローラーは機械本体に着脱できるようになっています。着脱の際、必ず先に電源を切ってください。誤って動き出すとけがをする恐れがあります。
-  **外せ**
糊付機械を洗浄するときは、コントローラーとスリッターを取り外して行ってください。ローラーの間に手を巻き込んだり、スリッターの刃物で手を切ったりする等、思わぬ事故を未然に防ぎます。
-  **外せ**
糊付機械を洗浄するときは、オクリダシローラーを取り外して行ってください。ドクターローラーとオクリダシローラーの間に手を巻き込む事故を未然に防ぎます。



警告

スリッター運転中には絶対に刃物に触れないでください。手を切ります。また、スリッター停止中も十分注意してください。



分解禁止

スリッターのカッターボックスを分解しないでください。手を切ります。



禁止

コントローラーの電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電等の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。



禁止

濡れた手でコントローラーの電源プラグを抜き差ししないでください。感電等の原因となります。また、必ずアースをとってご使用ください。



禁止

機械の上に重いものを置かないでください。機械が変形・破損したり、落下してけがの原因となることがあります。



禁止

ぐらついた台の上や傾いた所等、不安定な場所に置かないでください。機械の誤作動や、転倒によりけがの原因となることがあります。必ず水平な場所で使用してください。



警告

脚ロックレバーを解除し、脚を外に開くときや閉じるときは、手をはさむ恐れがありますので十分注意して行ってください。



警告

脚を開き組立てるときは、脚が確実にロックされていることを確認してください。ロックの状態が悪い場合、作業中、脚が倒れて、けがをする恐れがあります。また、脚を内側に折りたたみ収納する際、脚が確実にロックされていることを確認してください。ロック状態が不十分だと運搬時に脚が開き、足をけがする恐れがあります。ロック状態が悪い場合は、部品交換ないし修理をご用命ください。

注意



注意

精密機械ですから落としたり、ぶつけたり、極端な衝撃を加えないでください。



注意

電圧低下、電圧変動によりコントローラーが正常に作動しない場合がありますのでご注意ください。



ロック

コントローラー、スリッターは、本体から取り外して別に運搬してください。運搬中に機械が落下して破損する恐れがあります。機械本体と脚部を同時運搬される際は、機械本体・上下フレームのパチン錠、本体と脚のキャッチクリップを必ず掛けてください。また、糊タンクロックを下げてください。



禁止

窓を閉めきった自動車の中や直射日光があたる場所等、異常に温度が高くなる場所や、湿気の多い場所に長時間放置しないでください。機械の変形・故障等の原因となることがあります。



禁止

掃除をするときはワイヤーブラシなど、かたいものでこすらないでください。ローラー等の表面に局部的な力を加えると破損する恐れがあります。



注意

液晶表示は、使用温度範囲(0~40℃)を超えると、表示が見えにくくなる場合があります。また、低温(0℃以下)になると表示切替りのレスポンスが遅くなる傾向があります。低温時は予め10分程度、通電後、糊付け作業を行ってください。



注意

液晶表示は、見る方向によって表示が見えにくくなる場合があります。



注意

使用後はローラー、糊タンクは水洗いし、ステータ脚等、糊のついたところは、水を含ませた雑巾等で拭き取った後、乾いた雑巾で乾拭きしてください。洗浄、拭き取りが十分でないとう品の劣化や変色に至る場合があります。



注意

ドクターローラー、糊ローラーの水洗いは厳密に行ってください。乾燥後、薄い糊の皮膜が残っているだけでも、糊付けのムラ、かすれの原因となることがあります。



注意

オクリダシローラー、検尺ローラーに糊がついたときは必ず雑巾などできれいに拭き取ってください。糊がついた状態で放置するとひび割れすることがあります。



禁止

機械に糊を入れたまま長時間放置しないでください。特に機械が新品の使いはじめの時期は、必ず使用後に機械を洗浄してください。糊ローラー、ナラシローラー、糊上げローラー、オサエローラー、ドライブローラーが変色(腐食)することがあります。ローラーの変色は高温になるほど進行が早くなりますので、糊を付けたまま自動車へ保管する際は特に気を付けてください。

注意



注意

経時により、オクリダシローラーや検尺ローラーが変色（黄変等）する場合があります。ローラー間のグリップ力を保持していれば、糊付性能に影響はありません。グリップ力が低下した際は、ピンチ圧を調整したり、場合によってはローラーの交換が必要な旨、予めご了承ください。



注意

『AQUA COATER BOSS』は、当社アクアマイルド及びルーアマイルドで均一な糊付けができるよう設計しております。糊の種類、粘性、使用条件等によって、糊付き状態にバラツキが発生します。レギュレーターに、アクアマイルド（又はルーアマイルド）を入れ、規定線までの水の量で希釈するとアクアマイルド（ルーアマイルド）溶液がつかれます。



注意

糊タンク内に糊を入れたまま一晩放置すると、糊の流動性が悪くなり糊切れを起こす場合があります。ご使用前に糊タンク内の糊をへらで混ぜるか、一旦糊をレギュレーターに戻して再攪拌してください。



注意

製品出荷時、『AQUA COATER BOSS』の糊厚は、糊ローラーとドクターローラーの間隔量で左右同じになるように調整しています。しかしながら、実際に壁紙に糊を付けた状態では、左右の糊付量に若干違いが発生する場合があります。その場合、糊付き状態を確認しながら、本書P16・P35を参考に調整してください。



注意

本体部のコントローラー取付面（軸受カバー2）にシール等貼付しないでください。本製品は、コントローラーからの信号を非接触（コードレス）にて本体へ送信しています。シール貼付により信号伝達が阻害され、読み取り不良を発生させる場合がありますのでご注意ください。



注意

壁紙や接着剤等の材料、あるいは気温をはじめとしたご使用環境等の条件によっては、『AQUA COATER BOSS』の糊付性能、スリッター切断性能、採寸性能等が十分に発揮できない場合があります。このような場合、予め試験使用しご確認された後本使用してください。



注意

壁紙材料の種類によっては、壁紙を機械にセットした状態で放置すると、空气中の湿気により巾方向に伸びるものがあります。このような材料を、スリッター切断後そのままの状態では、湿気により壁紙が伸び、巾寸法がスリッターの設定から変化するため、切断面に段差が生じ美しい突き付け施工ができない場合があります。このような場合、放置時間を抑えるなど、予めご留意願います。



注意

スリッターでクロス（クロス）の耳を切断時、クロス（クロス）のセット方法が悪いとまっすぐ切れなかったり、切れ味が悪い場合があります。クロス（クロス）原反の位置、スリッターのカッター位置を左右同じにセットし、クロス（クロス）は左右たるみが出ないよう原反を抑えながら機械に引き込んでください。



注意

スリッターでクロス（クロス）の耳を切断時、クロス（クロス）原反の巻き状態が悪いものや、つぶれた状態の原反等では、まっすぐ切れない場合や耳の端部がつまる場合があります。巻きが悪いものは、耳をそろえ直してご使用ください。つぶれた原反のものは、巻き直さず矯正してからご使用ください。



注意

カットテープご使用の際、テープが蛇行、シワになる場合があります。テープはまっすぐに切断されているものをご使用ください。また、テープ側板のあて方でテープにかかるテンションが調整できます。適度なテンションでご使用ください。



注意

壁紙や接着剤の種類、状況によっては、十分な性能が発揮できない場合があります。このような場合、摩耗した部品の迅速な交換が必要な旨、予めご了承ください。



注意

経時のご使用により『AQUA COATER BOSS』の構成部品が摩耗し、十分な性能が発揮できない場合、当社営業所宛お問い合わせいただき、部品交換ないしオーバーホールをご用命ください。



注意

『AQUA COATER BOSS』では、予め消耗を想定した部品があります。それらの部品につきましては、保証期間内であっても無償での部品取り替えはできませんので予めご了承ください。



注意

修理が必要な場合、施工現場にて修理するには修理内容に限りがあります。厳密に修理するには、一旦当社へ機械を戻し、詳細な点検調整が必要なことを予めご了承ください。



注意

『AQUA COATER BOSS』をご使用の際、取扱説明書、保証書をよくお読みいただき、ご理解された上でご使用ください。本機の保証期間は6ヶ月ですが、取扱い等に問題があった場合、保障できかねる場合がありますので予めご了承ください。



注意

『AQUA COATER BOSS』はスリッター精度向上の為にテンションのかかりやすい構造にしています。壁紙正反の場合や重い原反の場合、モーターに負荷がかかりますのでNEWテンションバー2は、原反の巻が少なくなった場合にご使用ください。



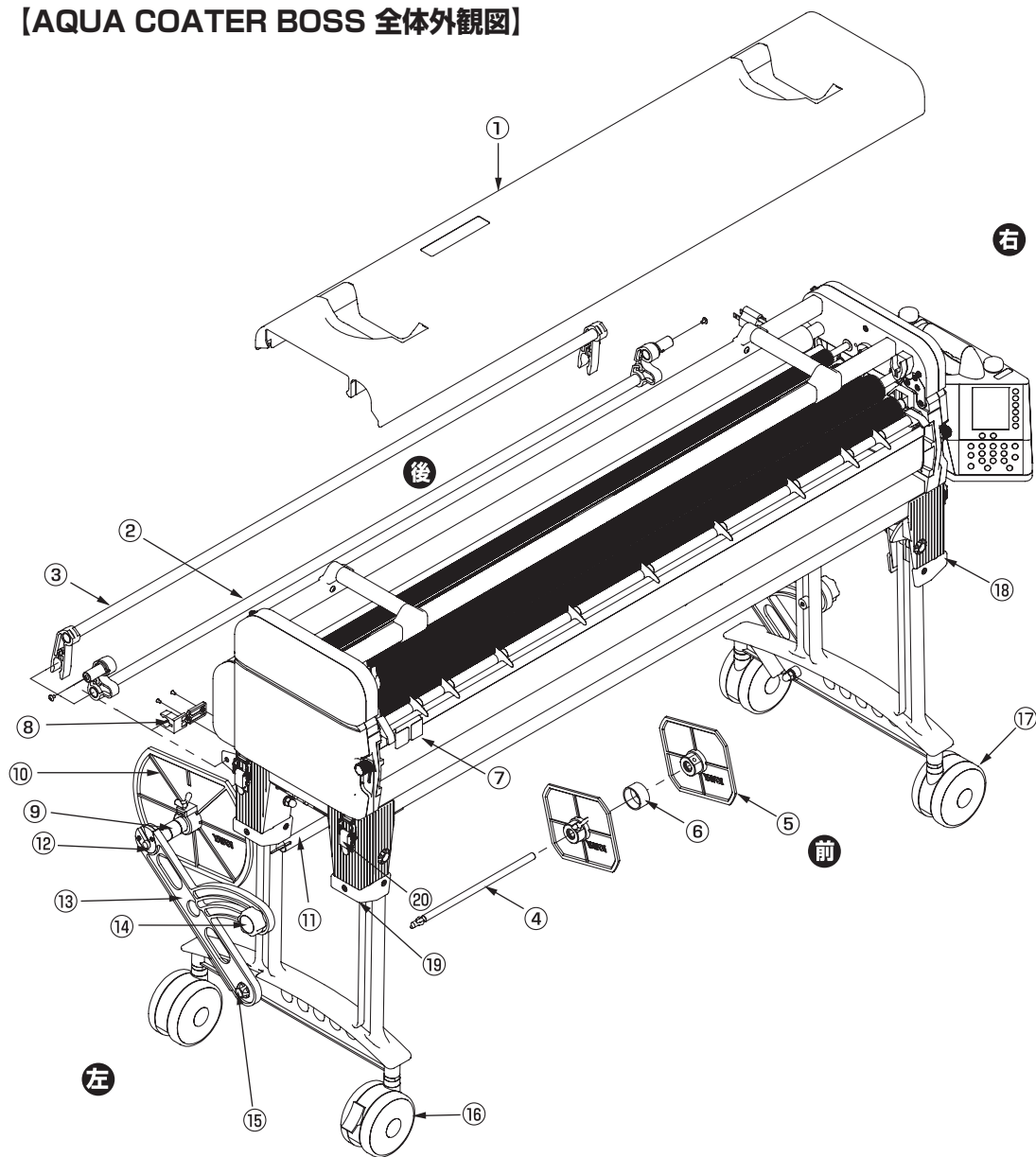
注意

クロス側板はクロス原反に密着して固定してください。密着していないと壁紙が原反から緩む原因となります。

各部の名称

2

[AQUA COATER BOSS 全体外観図]



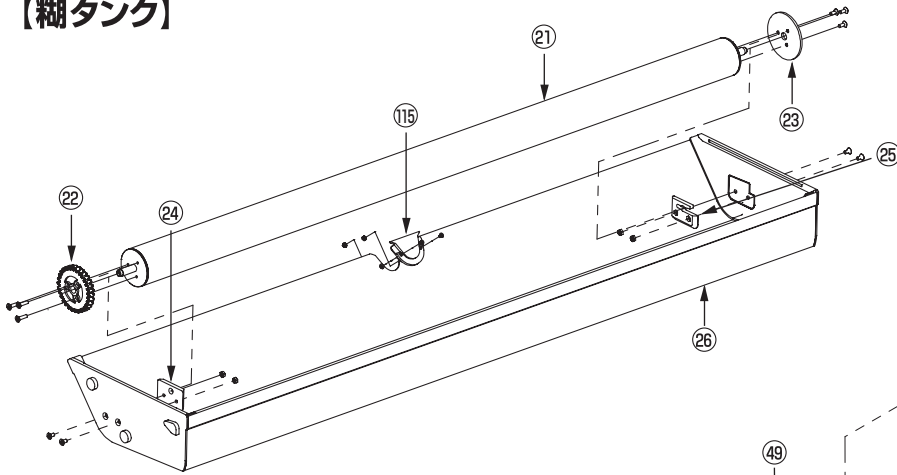
[全体外観図]

商品番号	部品名	使用個数
①	403-538 本体カバー B	1
②	400-256 NEWテンションバー 1	1
③	400-257 NEWテンションバー 2	1
④	400-258 テープ芯棒 A (蝶ナット付)	1
⑤	400-551 テープ側板QN (ネジ無)	2
⑥	350-164 テープ芯スイッチ	1
⑦	400-259 テープガイド A 50mm巾	1
⑧	400-052 テンションバーロック LS	2
⑨	400-335 クロス芯棒 A	1
⑩	400-261 クロス側板 (蝶ネジ付)	2
⑪	400-262 テンションバー 3	1

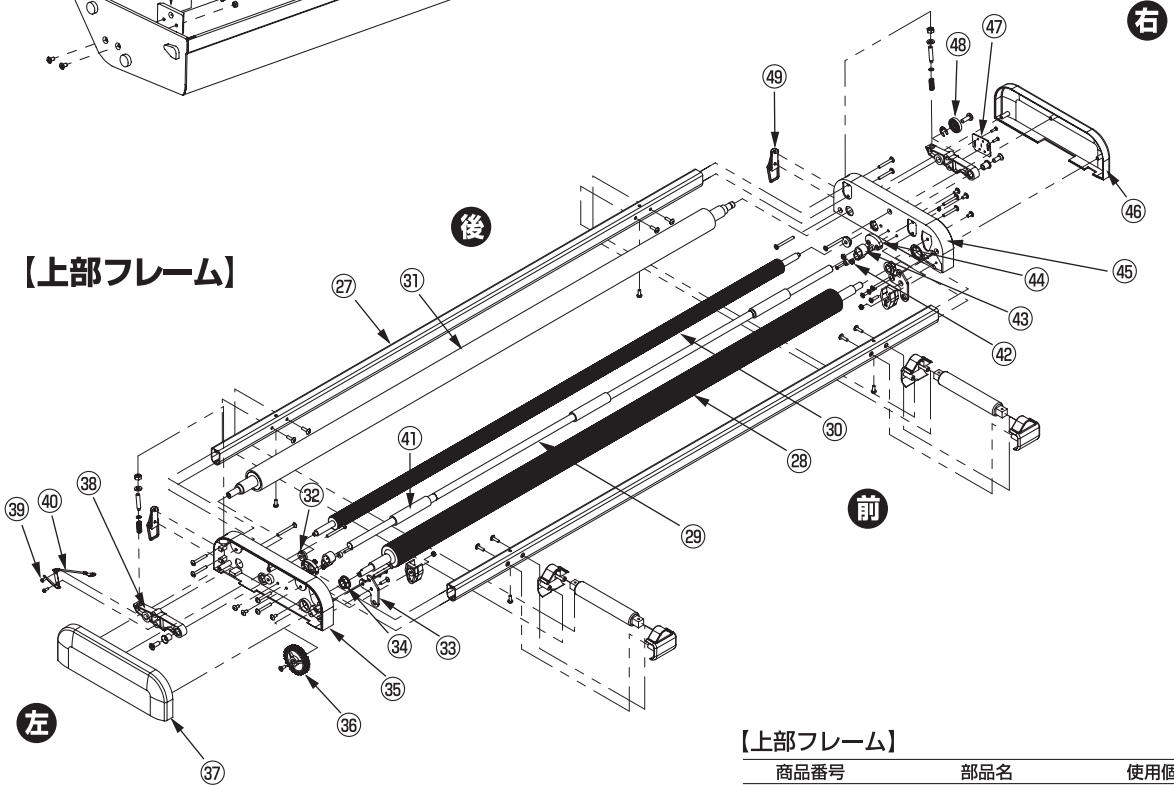
商品番号	部品名	使用個数
⑫	408-604 クロス受け摺動材 (ネジ側) ブラック	2
	408-605 クロス受け摺動材 (ネット側) ブラック	2
⑬	400-263 クロス受けブラケット	2
⑭	400-264 ツマミ	2
⑮	400-265 M8 フランジクレーター	2
⑯	400-266 キャスター (ストッパー有)	2
⑰	400-267 キャスター (ストッパー無)	2
⑱	400-268 脚キャップ	4
⑲	400-269 脚用ローラー	4
⑳	401-253 パチン錠 SC	4

※⑤のテープ側板QNにはネジが付属されていません。
ネジは別売りですので、フランジャーM6(400-566)か
蝶ネジM6×12(404-856)を指定してください。

【糊タンク】



【上部フレーム】



【糊タンク】

商品番号	部品名	使用個数
②①	400-742 糊上げローラー+	1
②②	400-271 糊上げギヤ	1
②③	400-272 糊止めパッキン	1
②④	400-056 糊上げブラケット左 LS	1
②⑤	400-057 糊上げブラケット右 LS	1
②⑥	400-741 糊タンクAⅢ+本体	1

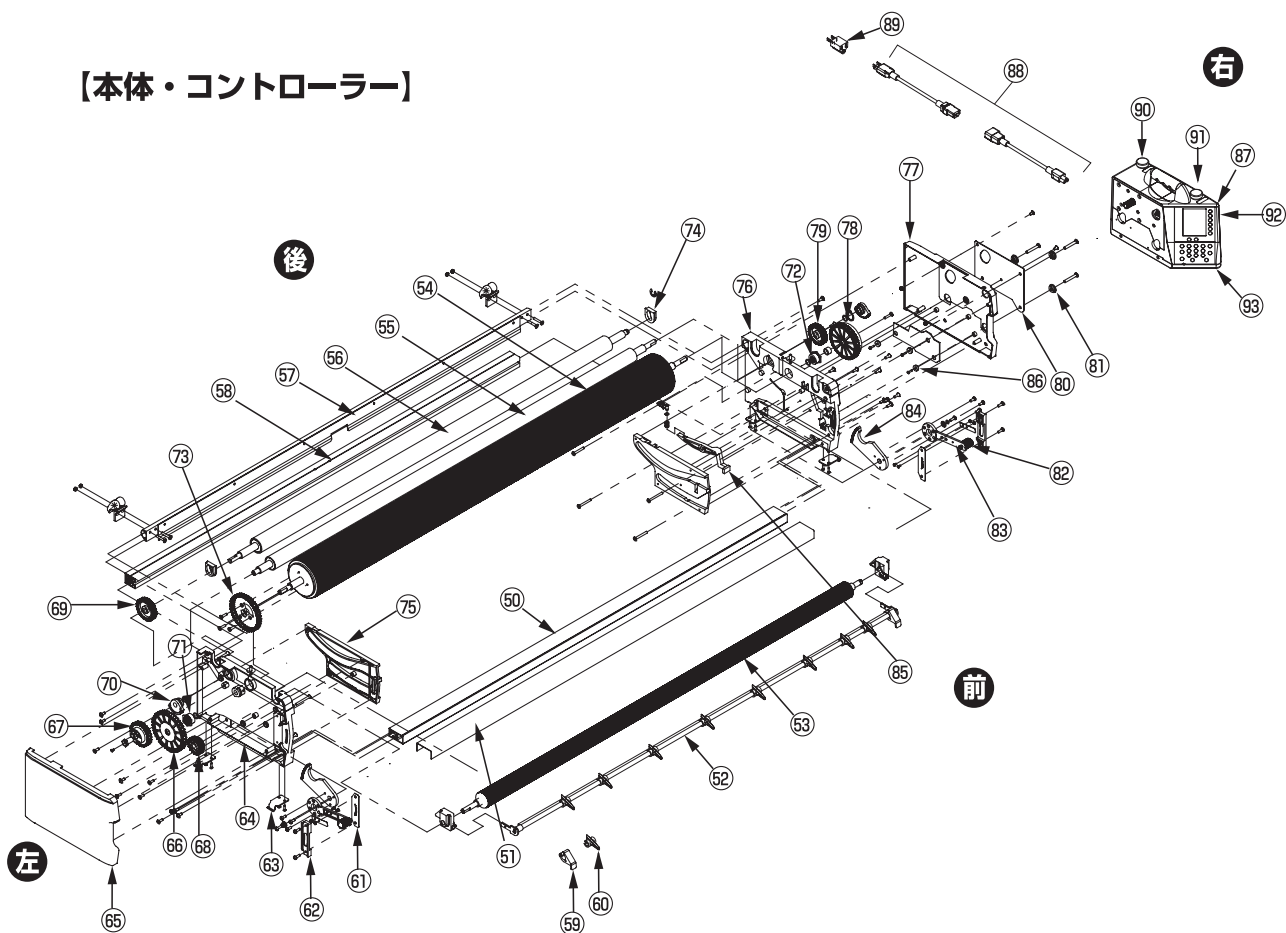
※400-743 糊タンクAⅢ+一式(②④~②⑥、②⑥を組立したものです。)

①⑤ 400-772 糊タンク穴止めキャップ

【上部フレーム】

商品番号	部品名	使用個数
②⑦	400-275 マルパイブステー 1	2
②⑧	400-276 ドライブローラー 1	1
②⑨	400-277 ウェイトローラー	1
③⑩	400-278 オサエローラー	1
③①	400-279 検尺ローラー	1
③②	408-650 オサエローラーブッシュ	2
③③	400-063 ヒンジ板左 LS	1
	400-064 ヒンジ板右 LS	1
③④	400-280 ドライブローラーブッシュ	2
③⑤	403-532 軸受板 3B	1
③⑥	400-282 ドライブギヤ	1
③⑦	403-533 軸受カバー 3B	1
③⑧	400-283 検尺ブラケット	2
③⑨	409-744 静電防止金具	1
④⑩	409-745 静電防止金具用電線	1
④①	400-065 ウェイトローラー 2	3
④②	400-066 ウェイトローラー止具	2
④③	400-067 ウェイトローラーブラケット 1	2
④④	400-068 ウェイトローラーブラケット 2	2
④⑤	403-534 軸受板 4B	1
④⑥	403-535 軸受カバー 4B	1
④⑦	400-331 センサーケーブル	1
④⑧	409-749 マグネットフィン 1	1
④⑨	400-302 パチン錠 (本体)	2

【本体・コントローラー】



【本体・コントローラー】

商品番号	部品名	使用個数
⑤①	400-285 ノリオケステー	1
⑤①	400-286 カッター定規	1
⑤②	403-539 ツメステー F BOSS	1
⑤③	400-288 ナラシローラー	1
⑤④	403-541 糊ローラー B	1
⑤⑤	400-290 ドクターローラー	1
⑤⑥	400-291 オクリダシローラー	1
⑤⑦	400-774 防風カバー付ステー AⅢ	1
⑤⑧	400-293 ベースステー	1
⑤⑨	400-294 糊タンクロック	2
⑥①	400-337 ツメ F LN	9
⑥①	409-769 糊厚調整ブラケット 1	2
⑥②	409-770 糊厚調整ブラケット 2 左	1
⑥②	409-771 糊厚調整ブラケット 2 右	1
⑥③	400-296 パチン錠フック	4
⑥④	403-528 軸受板 1B	1
⑥⑤	403-529 軸受カバー 1B	1
⑥⑥	400-298 糊付ギヤ 1	1
⑥⑦	400-299 テンションギヤ	1
⑥⑧	400-301 ナラシギヤ	1
⑥⑨	409-779 オクリダシギヤ	1
⑦①	400-303 セクターギヤ 左	1
⑦①	400-304 セクターギヤ 右	1
⑦①	400-305 糊ローラーブッシュ	2
⑦②	409-783 Oリング	2
⑦③	400-306 糊付ギヤ 2	1

※403-540 ツメステー F 一式 B(⑥②, ⑥③, ⑥④)を組立てたものです。))

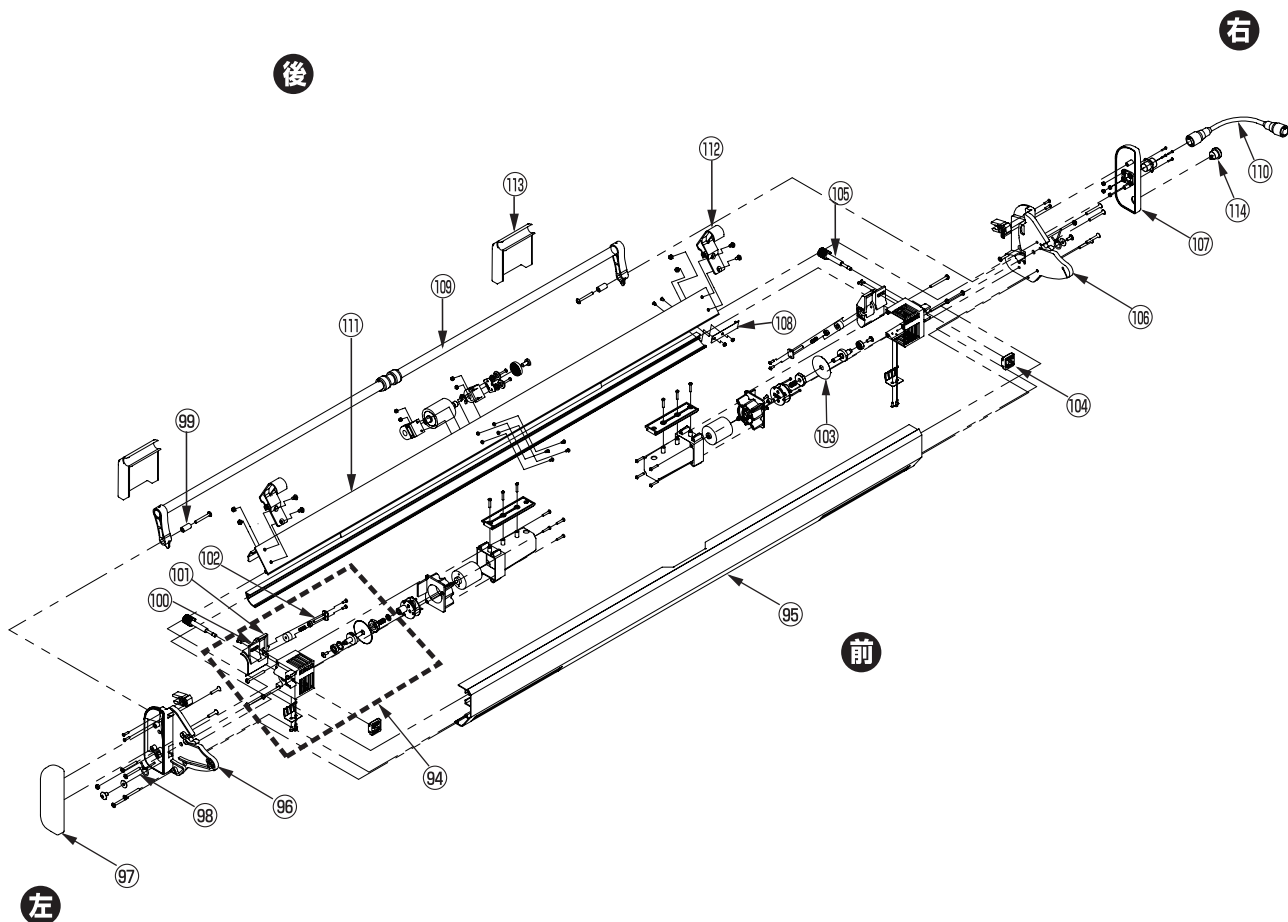
商品番号	部品名	使用個数
⑦④	409-785 オクリダシローラーブラケット左	1
⑦④	409-786 オクリダシローラーブラケット右	1
⑦⑤	400-784 ガイドレール左 AⅢ	1
⑦⑤	400-785 ガイドレール右 AⅢ	1
⑦⑥	403-530 軸受板 2B	1
⑦⑦	403-531 軸受カバー 2B	1
⑦⑧	400-310 糊付ギヤ 3	1
⑦⑨	400-311 ドクターギヤ	1
⑧①	400-312 PCB 補強板	1
⑧①	409-793 PCB 止具	3
⑧②	400-313 糊厚ツマミ	2
⑧③	400-314 糊厚調整レバー (ツマミ付)	2
⑧④	400-315 糊厚調整ギヤ	2
⑧⑤	400-316 ノリオケ SW 用カム	1
⑧⑥	409-798 センサー基板取付キャップ	3
⑧⑦	403-523 AQUA COATER BOSS コントローラー	1
⑧⑧	401-257 電源ケーブル黒 ^{※1}	1
⑧⑧	401-258 中継電源ケーブル黒 ^{※2}	1
⑧⑨	400-987 変換プラグアダプタ黒	1
⑨①	400-953 割込 SW キャップ K	1
⑨①	400-954 ストップ SW キャップ K	1
⑨②	400-871 表示シート大 EC5	1
⑨③	400-872 表示シート小 EC5	1

※401-259 電源ケーブルセット黒(⑧⑧, ⑧⑨のセット品です。)

注1:電源コンセント接続側

注2:コントローラー接続側

【スーパーナフスリッター】



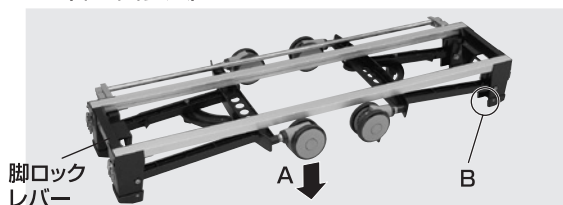
【スリッター】

商品番号	部品名	使用個数
⑨④ 400-155	カッターボックスセット左・SP	1
400-156	カッターボックスセット右・SP	1
⑨⑤ 400-776	スリッターレール 1-AⅢ	1
⑨⑥ 400-777	軸受板 5-AⅢ	1
⑨⑦ 403-536	軸受カバー 5B	1
⑨⑧ 400-323	テンションバーバネ	2
⑨⑨ 409-817	スリッターテンションバー用ヒンジ管	2
⑩⑩ 400-160	耳切ガイド左・SP	1
400-161	耳切ガイド右・SP	1
⑩⑪ 409-820	研磨材	2
⑩⑫ 409-821	研磨軸	2
⑩⑬ 400-575	カッターQ	2

商品番号	部品名	使用個数
⑩⑭ 400-164	スライド固定具・SP	2
⑩⑮ 409-831	刃幅調整ツマミ	2
⑩⑯ 400-778	軸受板 6-AⅢ	1
⑩⑰ 403-537	軸受カバー 6B	1
⑩⑱ 400-167	静電防止金具 2・SP	1
⑩⑲ 400-325	スリッターテンションバー	1
⑩⑳ 400-736	スリッター電源コードⅡ	1
⑪① 400-781	スリッターレール 2-AⅢ	1
⑪② 400-782	スリッターフック -AⅢ	2
⑪③ 400-329	カッターカバー	2
⑪④ 400-783	スリッタースイッチ	1

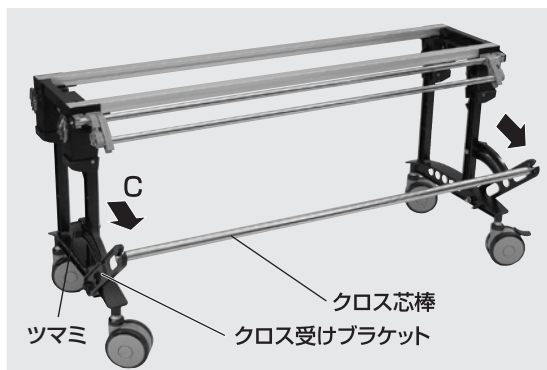
脚部の組立、テンションバーの取付

- ①脚ロックレバーを手で引き上げながらロックを外し、矢印Aの方向に開いてください。
(第1図参照)



第1図(脚部を折りたたんだ状態)

- ②ツマミを緩め、クロス受けブラケットを矢印Cの方向に倒し、ツマミを固定してください。
(第2図参照)
- ③クロス芯棒を第2図のように設置してください。



第2図(脚部組立状態)

脚部の折りたたみ、収納

- 脚ロックレバーを手で引き上げながら、矢印Dの方向に脚を折り畳み、ロックさせてください。
(第3図参照)



第3図

⚠ 警告

脚を外に開くとき、第1図のB部(4カ所)に手をはさむ恐れがありますので、十分に注意してください。

⚠ 警告

脚ロックレバーを解除し、脚を外に開くときや閉じるときは、手をはさむ恐れがありますので十分に注意してください。

⚠ 警告

脚を開き組立てるときは、脚が確実にロックされていることを確認してください。ロックの状態が悪い場合、作業中、脚が倒れて、けがをする恐れがあります。また、脚を内側に折りたたみ収納する際、脚が確実にロックされていることを確認してください。

⚠ 注意

脚部組立の際、脚ロックレバーを解除しますと、脚部がフリーの状態になりますので、手や足などにケガをしないように注意してください。

⚠ 注意

クロス芯棒軸端部に過度な力が加わると破損の原因になりますので取り扱いに注意してください。

📌 メモ

クロス芯棒は、スリッターに収納できるようになっています。

⚠ 注意

脚ロックレバーは握ったままの状態ですと、ロックがかりません。ロックが解除されましたら、脚ロックレバーから手を離してください。組立・収納どちらの場合も同じです。

本体部の取付

- ①キャスターのストッパー（2ヶ所）を下に押し（ON位置にし）、ロックさせてください。
- ②機械本体を背面より持ち上げ、脚部の上に載せてください。（第4図参照）
- ③パチン錠（4ヶ所）で本体部と脚部を固定してください。

△ 注意

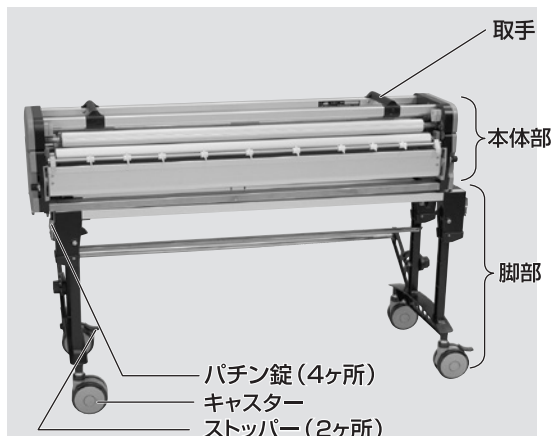
製品出荷時は、本体部と脚部を逆に取付けてありますので、正しい位置に取付け直してご使用ください。

△ 注意

本体部、脚部をパチン錠（4ヶ所）で確実に固定してください。

△ 注意

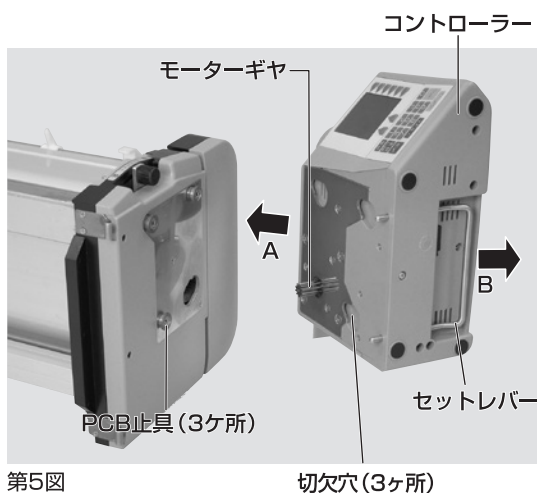
キャスターのストッパーに過度な力を加えないでください。ロック機構の破損の原因となります。



第4図

コントローラーの取付

- ①矢印Aの方向にコントローラーを持っていき、本体側面のPCB止具（3ヶ所）にコントローラー側の切欠穴（3ヶ所）を合わせてください。（第5図参照）
- ②セットレバー（コントローラー下部）を矢印Bの方向に引きながら、糊付けギヤ3とモーターギヤをかみ合わせた状態で斜め下向きにスライドさせ、コントローラーが完全に機械本体にロックされたところでセットレバーをはなしてください。コントローラーを上引っ張っても外れない状態が完全にロックされた状態です。



第5図

コントローラーの取り外し

コントローラーのセットレバーを矢印B方向に引きながら斜め上向きにスライドさせると、コントローラーを取り外せます。

△ 注意

安全の為、コントローラーは本体から外すと動作しないようになっています。
故障ではありませんので本体にセットして動作確認してください。

⚠ 警告

コントローラーの着脱を行うときは、必ず電源を切ってください。誤って動き出すとけがをする恐れがあります。

△ 注意

機械本体にコントローラーが正しくセットされていないと、コントローラーが落下したり、ギヤが破損するなど故障の原因となることがあります。
また、運転中にセンサーエラーを表示したり、設定長さよりもクロスが長く出たり、動かなくなったりすることがあります。

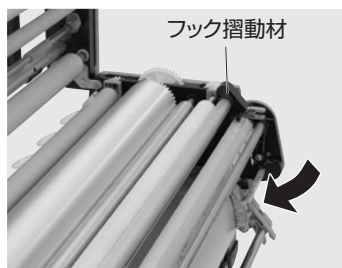
スリッターの取付

- ①スリッターを機械本体の背面に取付ます。
スリッターフックをマルパイプステーの両サイドにあるフック摺動材に引っ掛け、スリッター軸受け板を本体の背面に入れます。(第6図、第7図参照)
- ②少し持ち上げた状態で奥まで入れ、ロックがかかりますと収納時の位置になります。(第8図参照) (出荷時はこの状態になっています)
- ③少し手前に引いてロックを外し、ゆっくり手前に引くとセット時の位置決め溝に当たります。その位置でスリッターを下方方向に押し、ロックがかかり糊付時の状態にセットできます。(第9図、第10図、第11図参照)
- ④コントローラー背面のスリッター電源にスリッター電源コードを差し込みます。(第12図参照)

スリッターフック



第6図 スリッターフックをかけます。



第7図 スリッターフックを少し浮かせます。



第8図 奥まで入れてロックする。
(収納状態) (出荷状態)



第9図 ロックを外し外側へ開きます。



第10図 ゆっくり開きセットの位置で止めます。



第11図 下方へ押してセット完了します。



第12図

⚠ 警告

スリッターの取付を行うときは必ずコントローラーの電源を切ってください。誤って動き出すとけがをする恐れがあります。

⚠ 警告

スリッターを取付けるときに刃物で手を切らないように注意してください。

⚠ 注意

スリッター取付時、スリッターの上部、下部が左右とも確実に固定されていることを確認してください。固定が不十分な場合、スリッターが正常に動作しなかったり落下する恐れがあります。

⚠ 注意

スリッターを本体から取り外す際は、事前にスリッター電源コードをコントローラーから外してください。

メモ

スリッタースイッチで、運転中のカッター刃の回転のON・OFFが可能です。

クロス原反のセット

- ①脚部のツマミを緩め、クロス受けブラケットを手前に引き出し、ツマミを確実に締め込んでください。
(第13図参照)
- ②クロス原反にクロス芯棒を通し、クロス側板で両側からはさみ込みます。
- ③クロス芯棒の溝部をクロス受けブラケットにはめ込みます。クロス原反を、クロス受けブラケットとの間隔が左右同じとなるように中央にセットし、クロス側板で両側から固定し、ネジで確実に固定してください。なお、クロス側板と原反はすき間がないように固定してください。

⚠ 警告

クロス原反にクロス芯棒を通す際、またクロス受けブラケットにセットする際等、手をはさんだり、原反を落下させ、けがをされないよう十分に注意してください。

⚠ 注意

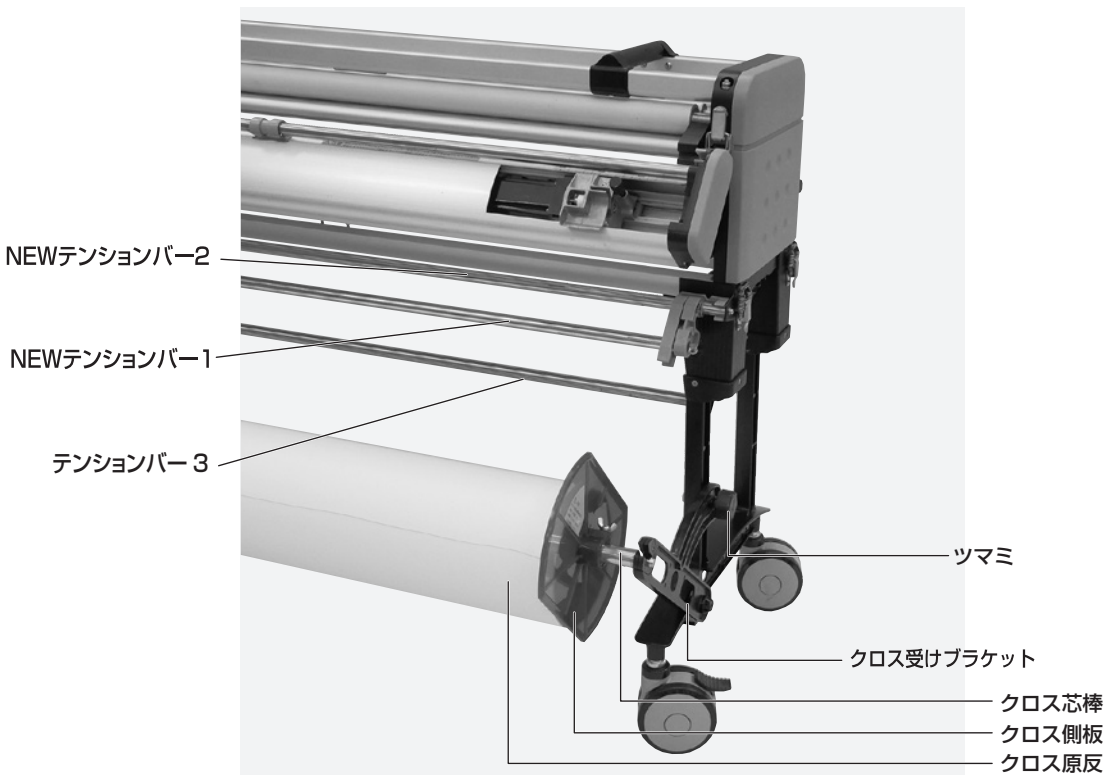
クロス側板はクロス原反に密着して固定してください。密着していないと壁紙が原反から緩む原因となります。

⚠ 注意

クロス受けブラケットのツマミは確実に締めつけてください。締まっていないと壁紙が蛇行する場合があります。

⚠ 注意

クロス原反を中央にセットし、スリッター裁断目盛を左右同じにしてもクロスの耳くずの幅が左右同じにならない場合は、クロス原反を耳くずの幅の狭い方へ少し移動してください。



第13図

カットテープのセット

- ①カットテープの紙管内にテープ芯を入れた後、テープ芯の穴にテープ芯棒を通し、テープ側板で両側からはさみ込みます。
- ②これを脚部上側部の穴に差し込み、蝶ナットで確実に締め込みます。(第14図参照)
- ③第14図に示すようにテープガイドを糊タンク前面の所定の位置に上から差し込んでください。
- ④機械本体のパチン錠2ヶ所をはずし、上部フレームを開きます。ツメステーFとナラシローラーを持ち上げ(同時に持ち上がります)、カットテープを下にしてナラシローラー、ツメステーFを元に戻します。
- ⑤テープを第14図のAの方向に引き出し、上部フレームを閉じ、機械本体のパチン錠2ヶ所を止めます。

△ 注意

ナラシローラーのカットテープ通過部分に糊が付着している場合、必ず糊を拭き取ってからナラシローラーにカットテープをAの矢印方向でセットしてください。糊が付着しているとカットテープがナラシローラーに巻き込んだり、カットテープがグクロスに曲がって付く場合があります。

△ 注意

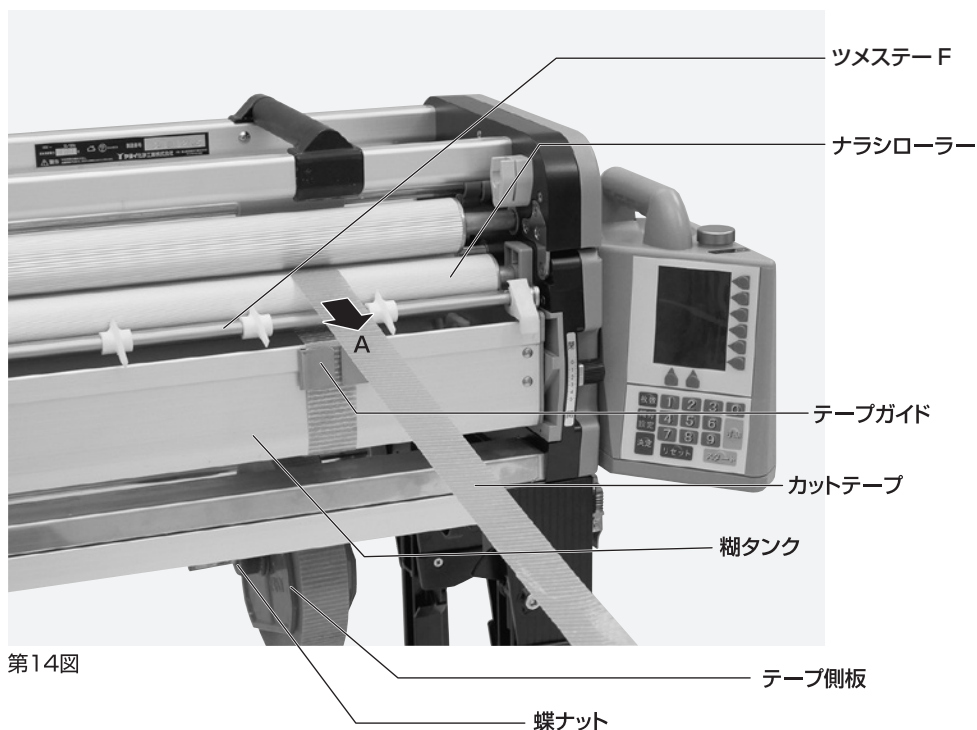
テープの種類によっては、巻が太く、取付ける際、本体に干渉したり、あるいは脚部を折りたたんだ際、床に接触する場合がありますので、ご注意ください。

メモ

カットテープはテープガイドの真下の位置にセットしてください。

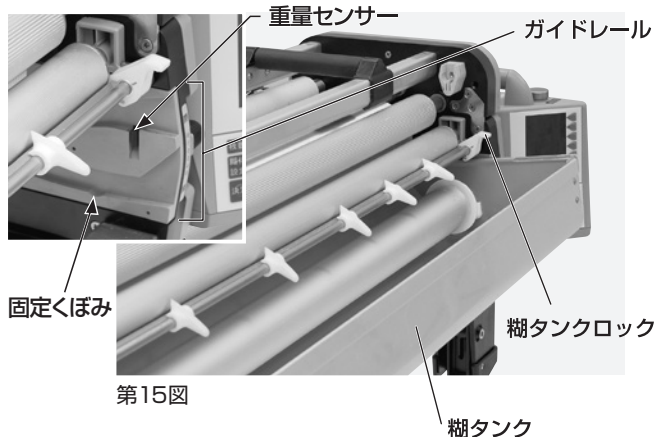
メモ

カットテープのテンションはテープ側板のあて方で調整してください。



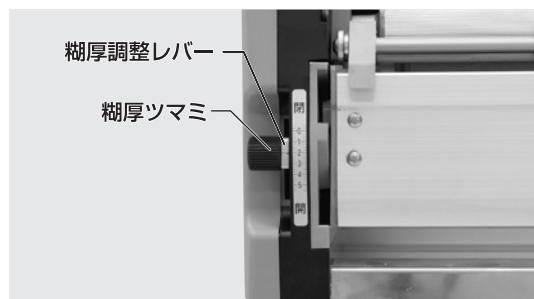
糊の供給

- ①糊タンクロックを上へ上げます。
- ②糊タンクを手前より僅かに持ち上げた後、ガイドレールに沿ってゆっくり引き出し(約7cm)、固定位置で止めてください。ガイドレールには、糊タンク用の固定くぼみと重量センサーがあります。(第15図参照)
- ③引き出した糊タンクの上から、糊を糊タンクの中全体に広がるように入れます。
- ④糊タンクを手前より僅かに持ち上げた後、ガイドレールに沿ってゆっくり押し込み所定の位置に固定してください。



糊厚の調整

本機正面の糊厚調整レバー(左右各1ヶ所)を上下することにより、糊ローラーとドクターローラーの間隔が変化しますので、最適な目盛位置にセットして糊厚ツマミを締めてご使用ください。なお、糊を入れ運転させながら行うと糊厚調整は容易です。(第16図参照)



第16図

△ 注意

糊厚調整レバーはラベルの目盛範囲内で動かすようにしてください。無理に動かしますと機械の故障原因となります。

△ 注意

ツメステーFの両側に『糊タンクロック』が装備されています。『糊タンクロック』は運搬や移動の際、振動等により『糊タンク』が前面に出ないように事前にロックする機構です。

- ・糊タンクを引出す場合→上へ上げた後、糊タンクを引き出してください。
- ・運搬や移動をする場合→下へ下げた後、運搬や移動してください。

△ 注意

糊を供給する際は、糊タンクをガイドレールの固定くぼみで止めて行ってください。糊タンクを引き出し過ぎると床に糊がタレたり、糊タンクが外れたりします。

△ 注意

接着剤の種類や希釈する際の水の添加量や希釈方法、希釈後の時間、あるいは気温等の環境条件等により接着剤の粘性が違います。最高スピードで運転しても糊があふれない程度に入れてご使用ください。入れすぎると糊が手前からあふれ出します。

メモ

コントローラにて初期設定を行うことで、糊タンク内の糊量が少なくなった際に、E (Empty) の点滅表示と警報音でお知らせすることができます。(参照P31)

△ 注意

重量センサーは、右側のガイドレールにのみ付いています。(第15図参照)

糊等が付着しますと、誤動作する恐れがありますので、汚れた場合、水を含ませた雑巾等で拭き取ってください。

△ 注意

糊厚を絞った状態で、空運転しないでください。異音が発生したり、機械が故障する場合があります。

△ 注意

出荷時、糊厚が左右同じになるように調整しています。しかしながら、実際に糊付けした状態では、左右の糊付量に若干違いが発生する場合があります。その場合は糊付け状態を確認しながら、本書P35を参考に調整してください。

△ 注意

高粘性の接着剤を糊付けした場合、壁紙の種類によっては糊タンク内に糊が残存していても、糊切れを起したり、糊付有効m数が減少する場合があります。

特に高粘性の接着剤で糊厚を絞り、糊付スピードを早くした場合、発生しやすくなります。

その場合は、適度に粘性をゆるめたり、若干糊厚を増やしたり、あるいは糊付スピードをゆるやかにする等調整してください。

ツメ位置の調整

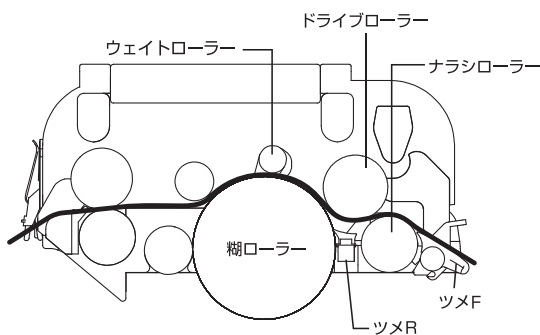
ツメの位置が悪いとクロス巻き込みや異音の原因となります。作業前に確認・調整を行ってください。

ツメR

先端が糊ローラーの縦溝(7本)の凹部に少し触れる程度の位置に調整し、ビスで固定してください。

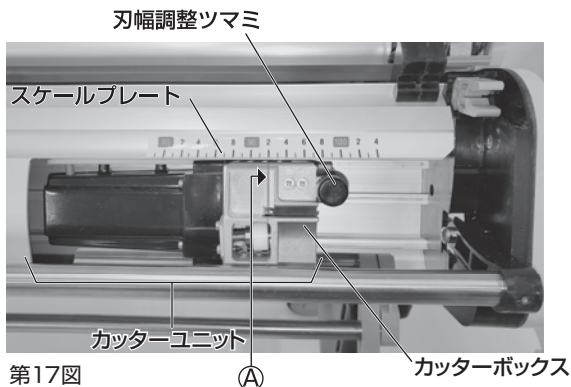
ツメF

ナラシローラーに触れない程度に手で回し調整してください。



裁断幅の調整

- ①スリッターの刃幅調整つまみ（左右各1ヶ所）を時計の針と逆方向に2回転ほど緩めると、カッターユニットを左右にスライドすることができます。
- ②カッターユニット内のAのラインがスリッターの刃の位置を示しています。Aのラインをスケールプレートの所要寸法位置にあわせ、刃幅調整つまみを締めてください。（第17図参照）



第17図



カッターボックス

△ 注意

ツメの位置が悪いと、動作時、ツメがローラーに当たり、異音が発生する事があります。

△ 注意

壁紙の種類によっては、オサエローラーやドライブローラーの溝が壁紙の表装面を押さえる為に異音が発生する事がありますが、異常ではありません。

ℳメモ

ツメは消耗部品ですので、破損や磨耗が大きい場合、新しいものと交換してください。

※ツメF、ツメRは各2個予備として付属しています。

ℳメモ

ツメFを下方向に強く回すと、ツメステーからツメFを取り外すことができます。また、新しいツメFを取付ける場合は、ツメステーに強く押し込んでください。

△ 警告

本製品は刃物に触れることがないように安全には配慮しておりますが、刃物で手を切ったりしないよう取扱いには十分に注意してください。

△ 警告

裁断幅の調整は必ずコントローラーの電源を切った状態、或いはスリッター電源コードをコントローラーから外した状態で行ってください。誤って動き出すとけがをする恐れがあります。

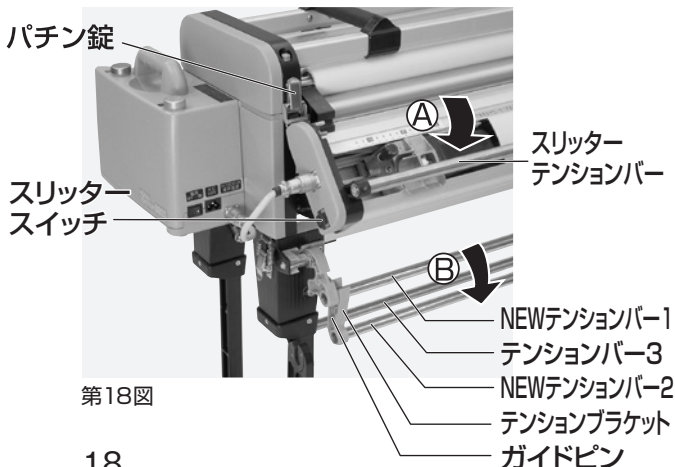
△ 注意

カッターユニットは、壁紙裁断時に出る切りくずやほこりが排出しやすい構造になっていますが、万一カッターボックス内に切りくず等が蓄積した場合、切れ味が悪くなります。その場合、竹串等で内部部品を傷めないよう慎重に取り除いてください。その際、必ずコントローラーの電源を切るか、或いはスリッター電源コードをコントローラーから外してください。また、カッターボックスは分解しないでください。

クロスを通し方

糊タンク内に糊が入っていることを確認してください。

- ①スリッターテンションバーを手前に引いておきます。(矢印A)
テンションバー 3を脚部にセットします。
NEWテンションバー2は、NEWテンションバー1を押さえ込み左右のテンションブラケットのガイドピンを外し、開口部を広くします。(矢印B) (第18図参照)
- ②本体のパチン錠2ヶ所を外し、上部フレームを開けてください。
- ③スリッターケーブルでスリッターとコントローラとを接続し、スリッタースイッチをONにします。
- ④コントローラの電源をONにし、運転させると、スリッターの刃物が回転します。
- ⑤クロスを引き上げ、テンションバー 3、NEWテンションバー 2、1、カッターボックス、本体部の順に通した後、運転を停止させます。(P19 第19図参照)
- ⑥スリッターテンションバーを矢印Cの方向に閉じた後、クロスの耳を引き出します。(P19 第20図参照)
- ⑦上部フレームを閉じ、パチン錠2ヶ所を締めて確実にロックさせます。
- ⑧ NEWテンションバー2は原反の状態により、矢印Dの方向にセットします。(P19 第20図参照)



第18図

⚠ 警告

本製品は刃物に触れることがないように安全には配慮しておりますが、刃物で手を切ったりしないよう取扱いには十分注意してください。

⚠ 警告

運転中、ローラー、ギヤ等に手や衣類を巻き込まないように十分注意してください。

⚠ 警告

上部フレームを閉めるときは、手をはさまないように十分注意してください。また、上部フレームを勢いよく閉じると部品の破損原因になりますので、ゆっくり閉じてください。

⚠ 注意

NEWテンションバーにはバネが内蔵されており、上へはね上がる構造になっています。

⚠ 注意

NEWテンションバー2を外す際は、NEWテンションバー1を押さえ込んで外してください。

⚠ 注意

壁紙によっては、重いものや材料強度の弱いものがあり、テンションバーをかけると壁紙が上らなかつたり、壁紙やテンションバー等を傷めたりする場合があります。このような壁紙を使用される場合、予め試験使用し、状態によってはテンションバーの使用を避けてください。

⚠ 注意

スリッターでのクロスの裁断時に、クロスの設定状態が悪いとまっすぐ切れなかつたり、切れ味が悪い場合があります。クロス原反の位置、カッターボックスの刃の位置を左右同じにセットし、クロスは左右にたるみが出ないように、原反を抑えながら機械に引き込んでください。

⚠ 注意

AQUA COATER RIIIはスリッター精度向上の為に、テンションのかかりやすい構造にしております。壁紙正反の場合や重い原反の場合、モーターに負荷がかかりますので、NEWテンションバー2は、原反の巻が少なくなった場合にご使用ください。

💡 メモ

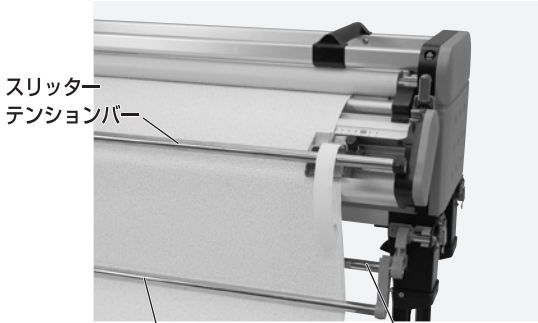
壁紙の種類や状態によっては、耳裁ちの必要が無い場合があります。耳裁ちしない場合はスリッターを取り外すか、スリッターテンションバーを手前に引いてセットし、カッター部を通さず、スリッターテンションバーの手前にクロスを通します。

💡 メモ

NEWテンションシステムにより、壁紙がセットしやすくなりました。(P19 第19図、第20図参照)

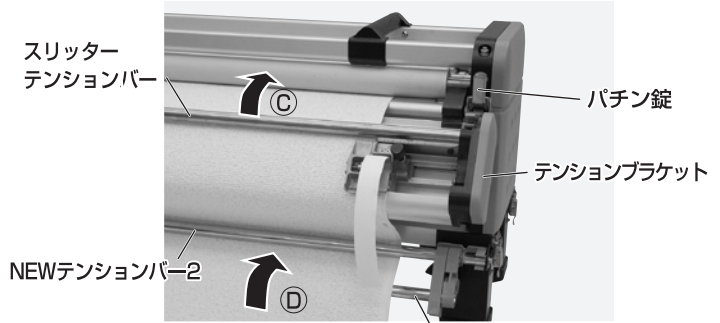
NEWテンションシステム

<クロスを挿入する時の状態>



第19図 NEWテンションバー2 NEWテンションバー1

<糊付け作業時の状態>



第20図 NEWテンションバー1

壁紙裏面検尺機構

スリッター背面の中央上部に、壁紙検尺車輪が付いています。壁紙の裏面で検尺を行うので、壁紙の種類による寸法誤差が少なく、正確な採寸を可能にしています。壁紙切れを検知すると、自動で本体の運転を停止します。より原反に近い位置で迅速に壁紙切れを検知できますので、最後の1枚まで有効活用しやすい上に、糊付した壁紙が手前に落ちてくる心配がありません。

メモ

スリッターを取り外した場合、本体の検尺ローラーにて壁紙の検尺を行います。スリッターを外した状態での糊付け作業も可能となっています。

注意

スリッターテンションバーを閉じていないと誤作動する恐れがあります。

注意

スリッターを使用して糊付けをする際に、壁紙によってはスリッターテンションバーの樹脂部で表面に跡が残る可能性があります。このような恐れがある場合、予め試験使用し、状態によってはスリッターの使用を避けてください。

注意

初期設定では裏面検尺機構が「OFF」に設定されています。「ON」にする時はP29を参照し設定を行ってください。

<使用方法>



スリッターテンションバー

壁紙を通してスリッターテンションバーを矢印方向へ閉じます。セット完了です。

糊付け作業

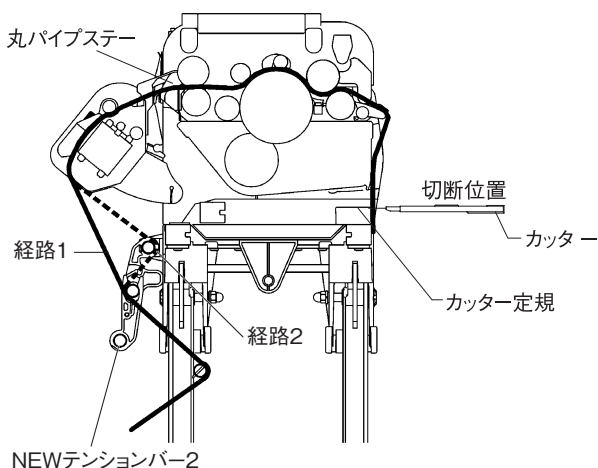
- 糊付け作業を始める際、操作パネルの寸動を使用し、クロスに糊がついている部分が切断位置より少し長めになるように送ってください。
- カッター定規に添わせてカッターを走らせ、長めに出したクロスをカットしてください。これでセット完了となります。
- 操作パネルにて、クロス長さ設定を行い本機を運転してください。操作パネルの使用方はP22からP27をご覧ください。

警告

糊付け運転中、ローラー、ギヤ等に手や衣類を巻き込まれないよう十分注意してください。

注意

カッターにて裁断する際は、必ずカッター定規に沿わせて裁断してください。



⚠メモ

本機は糊付スピード、寸動スピードおよび割込運転スピードをそれぞれ任意に設定することができます。糊付スピードは**スタート**を押しての運転中あるいは運転していない時に、寸動スピードは**寸動**を押し続けている運転中に、割込運転スピードは割込スイッチで運転中に、それぞれ操作パネルの \oplus \ominus キーを押してお好みのスピードに設定してください。

⚠メモ

作業終了時、丸パイプステーにてクロスをカットすると片付けの際に便利です。

⚠メモ

引き出したクロスをしばらく静置し素早く裁断すると、クロスの左右端の長さを揃えやすくなります。

ウェイトローラー

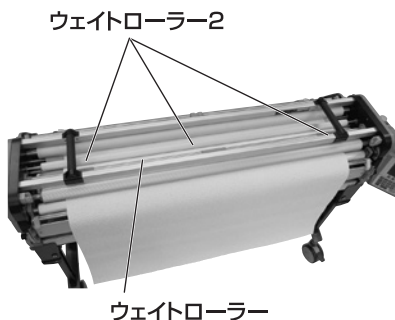
壁紙両端の糊付不良を抑えます。

壁紙によっては糊を塗布すると極端に横延びする物があります。このような壁紙を機械にセットしたまま放置すると、ノリローラー手前でたわみが発生し、ノリローラーに密着せずに出てきます。結果、両端の一部に糊が付かない部分が発生します。

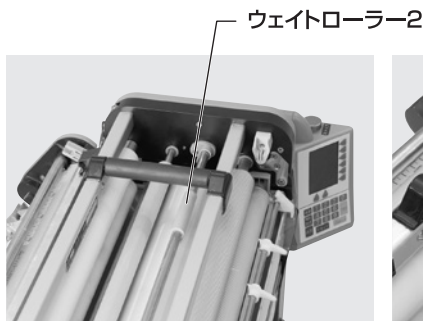
ウェイトローラーはたわんだ部分を強制的にノリローラーに密着させる機構です。(図21参照)

<使用方法>

壁紙をセットし、上蓋を閉じてください。壁紙両端と両サイドのウェイトローラー2の端面がほぼ同じになるように移動します。(図22参照) ウェイトローラーを奥に倒して(両端を持って倒してください)セット完了です。(図23参照) (上蓋を開けるとウェイトローラーは手前に移動します)



第21図



第22図



第23図

コントローラの操作方法

6

割込スイッチ

壁紙をセットする場合や、カウントに関係しない運転をしたい場合に使用します。
一度押すとON、もう一度押すとOFFになります。

STOP

非常停止のときに
使用します。



ON・OFFスイッチ



スリッター電源



注意

コントローラパネルのキースイッチ部分をカッター等の尖ったものや、ツメの先で押さないでください。故障の原因となります。



注意

コントローラの表面についた糊等の汚れを落とすときは、固く絞った雑巾等で拭き取ってください。



注意

危険防止の為、コントローラは本機から外すと動作しなくなります。本機にセットして動作確認を行ってください。

操作パネル

液晶画面

画面右側と下側にキーの項目が表示されます。キーの項目は画面の切替により変化します。

画面切替

液晶画面に項目が表示され、キーを押すと画面が切り替わります。

枚数

枚数設定時に使用します。

糊付設定

糊付け長さの設定を行うときに使用します。

決定

入力した糊付設定・枚数設定等を使用するとき使用します。

0~9

- ① 数字キー。設定値入力に使用します。
- ② カウントストップ機能のON/OFF切替時に使用します。

寸動

寸動で動かしたいときに使用します。押し続けている間だけ本体が運転します。

リセット

- ① 糊付量の値を0にするときに使用します。
- ② 入力した数値を0にするときに使用します。
- ③ プログラムモードで、このキーを約3秒間押し続けると、選択したプログラムの削除が行えます。

スタート

- ① 糊付設定及び枚数設定後、運転するときに使用します。
- ② プログラムモードで、このキーを約3秒間押し続けると、プログラムの追加が行えます。

メモ

時計は出荷の段階で時間を合わせています。時間にずれが生じた場合はP31初期設定画面の時間設定にて現在の時刻を入力してください。

コントローラーの初期化方法

STOPスイッチおよび画面切替キーの下から2つめのボタンを同時に押しながら電源を入れ、表示される画面の指示に従ってください。

液晶画面や本体の動作に異常があった場合は、一旦この方法で本体を初期化し、異常が修復できない場合はメーカーにご連絡ください。

操作方法

本機は、次の2つのモードに従って操作することができます。

通常モード …各種設定をその都度入力していく通常の糊付け作業方法

プログラムモード …予め設定しておいたプログラムデータに基づいて順に糊付けしていく作業方法

これらのモードは、画面右下の“プログラム”キーを入力することで順次切り替えることができます。

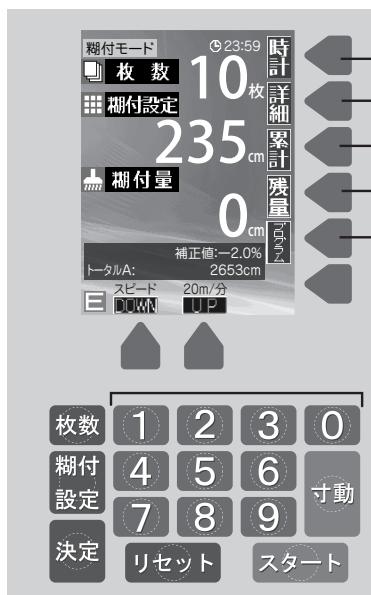
※通常モードに移行する際は“糊付”に表示が変わります。

操作方法・1

通常モード

- ①糊付設定を押します。背景が白くなり入力待ち状態になります。
 - ②糊付けしたい数値を入力し決定を押してください。押し間違えたときはリセットを押してください。
(右図は235cmが入力してあります)
 - ③枚数を押してください。“カウント”の表示が“枚数”になり背景が白くなります。
 - ④糊付けしたい枚数を入力し決定を押します。(右図は10枚が入力してあります)
 - ⑤スタートを押すと糊付けを開始します。糊付けが進むにつれ、糊付量がカウントされ、235cmになった時点で、糊付けが停止します。
 - ⑥停止すると、枚数表示が9枚となります。
 - ⑦この後⑤と⑥の作業を繰り返します。枚数が1枚ずつ減っていき、0になった時点でスタート押しでも機械は動かなくなります。
- 枚数に関係なく糊付する場合は枚数を押して、リセットもしくは0を入力し、決定を押してください。“カウント”と表示されます。
この後、スタートで糊付けし、設定値に達するとカウントが加算されます。

《コントローラ表示画面》



時計・カレンダー表示
(P27 を参照してください)

詳細 (日報) 表示
(P26 を参照してください)

累計
糊付量のトータルを現在の画面に表示できます。
トータルはA・Bの2種類があります。

残量値入力画面
(P30 を参照してください)

プログラムモード
あらかじめ設定しておいたプログラムデータに基づいて順に糊付けしていく方法
(P24 を参照してください)

△ 注意

糊付設定を変更するときは、リセットを押して糊付量の表示を0cmにしてから行ってください。
糊付量の値をリセットしないまま、糊付設定に新しい値を入力してスタートすると、新しい設定値が糊付量の値よりも大きい場合、その糊付量の値から加算されます。

メモ

本機は糊付スピード、寸動スピードおよび割込運転スピードをそれぞれ任意に設定することができます。
糊付スピードはスタートを押しての運転中、あるいは運転していない時に設定します。
寸動スピードは寸動を押し続けて運転中に設定します。
割込運転スピードは割込スイッチで運転中に設定します。
各設定は画面下のスピードで設定してください。
画面下部に現在のスピードの目安が表示されます。(m/分)
表示は4m/分~20m/分の範囲で調整できます

プログラムモード

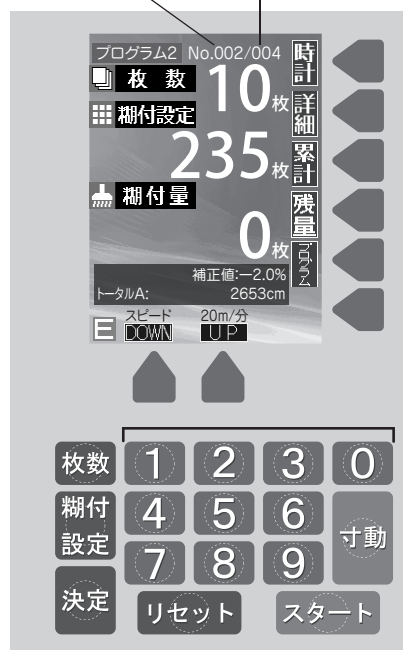
プログラムモードを使用するには、通常モード時に画面右下の“プログラム”キーを押してください。
プログラムは3画面分用意されており、各画面につき100件まで設定できます。

〔プログラムの設定値入力〕

1. 初期状態では、画面上部にNo.001/001と表示されています。糊付設定を押し、設定値を入力し、決定を押します。
2. 枚数を押し、設定値を入力し、決定を押します。
プログラムNo.1が完成です。
3. 新たにプログラムNo.2を設定するには決定を押しながら画面下部のスピードUPを押します。
4. 必要な情報を入力し、プログラムNo.2を作成します。
5. 同様にして、プログラムNo.3・4・・・と設定します。

現在参照中の
プログラムNo

登録済み
プログラムの総数



〔プログラムの設定確認・修正〕

決定を押しながらスピードUPあるいはDOWNを押すことによって、任意のプログラム番号を呼び出せます。

メモ

画面右側の詳細を押すとプログラムの一覧を見ることができます。画面右下の▲▼で任意のプログラムが呼び出せます。
設定値の確認や修正をしてください。(P25 参照)

〔プログラムを間に挿入するには〕

1. 追加したい箇所のプログラムNoを選択し、スタートを約3秒間押し続けます。
プログラムの挿入確認画面が表示されます。
2. 決定を押すと画面がプログラム入力待ち状態になりますので、1・2に習って設定値を入力してください。
プログラムの追加を中止する場合は決定ではなく、リセットを押してください。
3. プログラムを追加した場合、追加したプログラムNo以降はすべて記憶致します。

〔登録したプログラムの実行〕

実行したいプログラムNoを呼び出し、スタート・リセットで糊付けしていきます。選択したプログラム内容が全て実行されると、スタートを押しても糊付けは行いません。

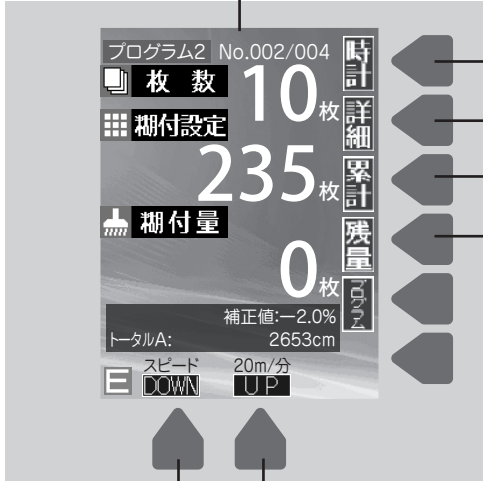
〔プログラムを削除するには〕

1. 削除したいプログラムNoを選択し、リセットを約3秒押し続けます。プログラムの削除確認画面が表示されます。
2. 決定を押すと指定したプログラムNoが削除され、次に設定していたプログラムがそのNoに入ります。削除を中止する場合は決定ではなく、リセットを押してください。

〔登録済みのプログラムを全てクリアするには〕

1. 画面右下初期化ボタンを押します。プログラムのオールクリア確認画面が表示されます。
2. 決定を押すとプログラムがオールクリアされます。オールクリアを中止する場合は決定ではなく、リセットを押してください。

プログラム No
現在糊付しているプログラムを表示



時計・カレンダー表示
(P27を参照してください)

詳細(日報)表示
(P26を参照してください)

累計
糊付量のトータルを表示できます。
トータルはA・Bの2種類あります。

残量値入力画面
(P30を参照してください)

スピード調整
4/m分～20m/分までUP・DOWNの操作で任意に調整できます。
割込スピードを変更したい場合は割込動作中に行ってください。
寸動スピードを変更したい場合は寸動動作中に行ってください。

メモ

同じ間取りの部屋の施工が続く場合などにプログラムモードを利用すれば、糊付け作業中に枚数などを確認して入力しなおす手間を省くことができます。

詳細画面

“詳細”キーを押すと画面左側に表示されます。

これまでに実行した糊付けの内容と、実行した時刻を一覧で表示します。

(3日分保存します。古いデータから削除します)

(通常糊付詳細画面)

詳細表示欄
150×3は150cmを3枚糊付けしたことを表します。

245×4は245cmを4枚糊付けしたことを表し、10時40分に4枚目を糊付けしています。

日付けが変わった場合空欄になります。

糊付け時刻表示
詳細表示欄で選択中の項目を糊付けした時刻を表示します。

重量センサー
糊オケが軽くなると点滅し、重くなると消えます。

時計・カレンダー表示
(P27を参照してください)

拡大画面(P.27)に移行します。
※プログラムモードでは通常画面に移行します。

残量入力画面
(P30を参照してください)

スクロール
詳細表示欄(画面左)の糊付けした項目のリストを選択できます。選択中の項目は白抜きで表示されます。

スピード調整
4m/分～20m/分まで任意に速度調整できます。寸動・割込も同様に速度調整できます。

(プログラム詳細画面)

プログラムの詳細
入力したプログラムの一覧を確認する事ができます。
白抜き文字は糊付け完了済み、黒文字は未完了です。
(中段から上が糊付け完了、下が未完了です)
また、パネル右下のスクロールで項目を選択でき、プログラムの追加や削除も(P25参照)行えます。

スクロールで糊付済の項目を選択すると、糊付けした時刻を下に表示します。
(245×4は12時36分に糊付けしています)

プログラム No
現在のプログラムが何番目か表示します。左図では56ヶのプログラムを入力しており、19番目をこれから糊付けします。

スクロール
画面左側のプログラムリストから項目を選択できます。画面の例では245×4が選択されています。

メモ

この画面では下へスクロールしながら設定値を順番に入力し、入力が終わりましたら最初の項目にカーソルを合わせて糊付けを始めてください。

メモ

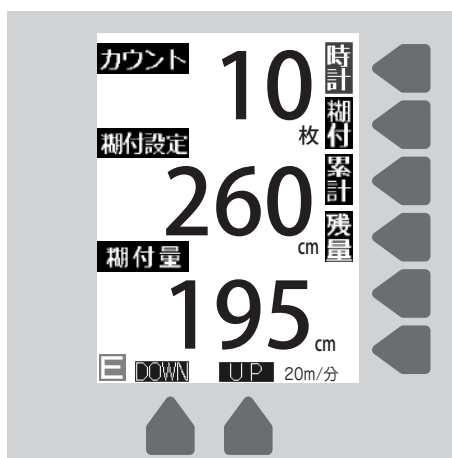
この画面のまま糊付けを行うことが可能です。また、糊付けした時刻の表示は壁紙のオープンタイムの確認等にも利用できます。

拡大画面

通常の糊付画面にあったトータル、残量、補正值などの表示が省かれ、枚数や糊付設定などの数値がより大きく表示されます。

また、画面の色調が白黒ベースに変更され、より数値を確認しやすくなっています。

画面右側の“糊付”キーを押すと、通常の糊付画面に戻ります。



時計画面

時計は出荷の段階で時間を合わせています。時間にずれが生じた場合はP29初期設定画面の時間設定にて現在の時刻を入力してください。

“時計”キーを押すか、しばらくの間糊付作業をしていない場合、この画面に切り替わり、現在時刻やカレンダーを表示します。

※切り替わる時間は設定できます。(P.29参照)

カレンダー表示

当日は白抜きで表示されます。先月や来月を確認したい場合は、右側のスクロールキー(矢印)で切り替えることができます。

時刻表示

現在の時刻を表示します。

作業内容

この画面に切り替わる前に設定していた糊付内容を表示します。

初期設定画面

カレンダー表示時間・累計切替・端末検知・ポンプ連動を設定できます。(P29参照)

糊付画面に戻る

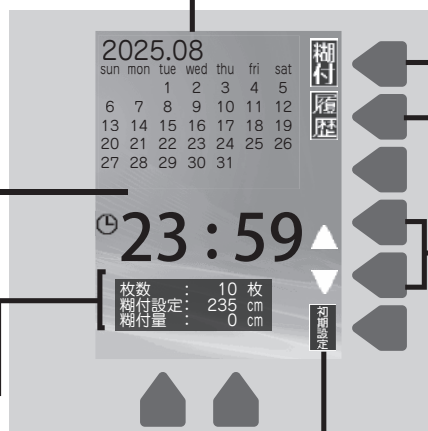
※プログラムモードを使用していた場合はプログラム画面に戻ります

履歴画面

日付毎に何m糊付けしたかを一覧で表示します。(P28参照)

スクロール

カレンダーをスクロールさせます。先月以前を確認したい場合は上を押します。来月以降を確認したい場合は下を押します。



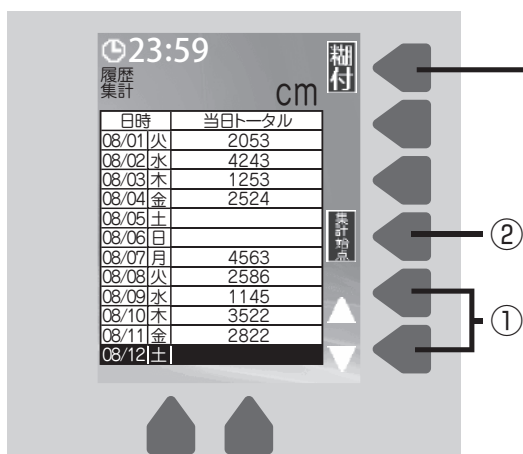
履歴画面

日付ごとの糊付トータルを表示します。また、任意の期間の糊付トータルを集計することも可能です。

このデータは過去3ヶ月分保存しており、古くなったデータから順に消去していきます。

期間の集計の方法

- ①で集計したい日付の最初の部分にカーソル（背景が黒の部分）を合わせます。
- ②の“集計始点”キーを押し、①で集計したい終わりの部分まで移動させます。
- 集計結果が画面上部に表示されます。

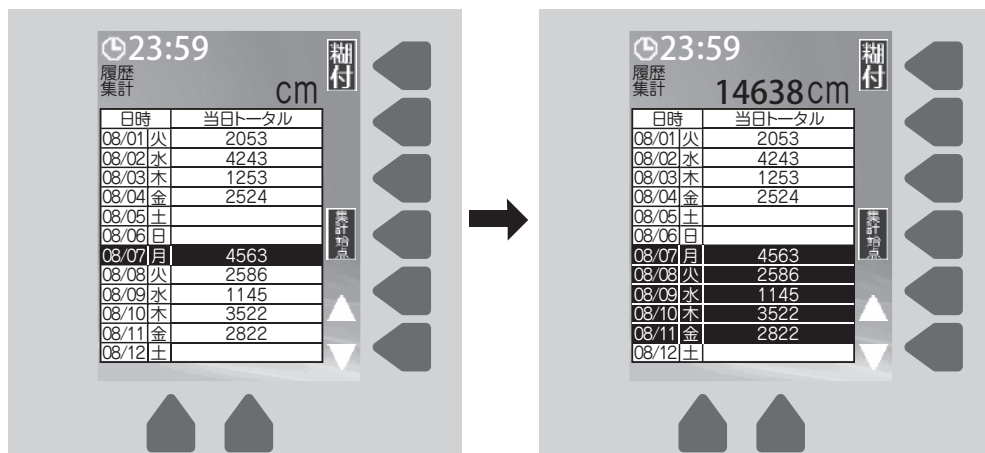


糊付画面

糊付画面に戻ります。
※プログラムモードの場合はプログラム画面に戻ります

下記画面での例（9/24～9/28まで集計する）

- ①でカーソルを9/24に合わせます。
 - ②を押してカーソルを9/28まで移動させます。
- 色が変わった部分の集計が画面上部の集計に表示されます。
(色が変わった部分を順次累積していきます)



初期設定画面

カレンダー表示時間

糊付画面で何も操作していないときに、自動で時計画面に切り替わるまでの時間です。

累計切替

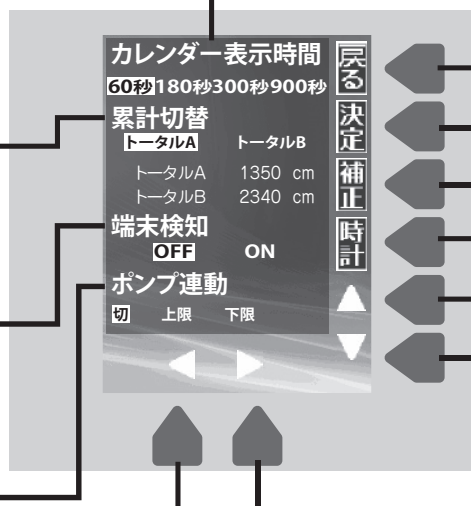
糊付画面で表示するトータル値を2種類から選べます。

端末検知

スリッターによる端末検知機能をON・OFFすることができます。

ポンプ連動

重量センサー機能を利用する場合選択します。



糊付画面に戻ります

決定

補正入力画面

(P30を参照してください)

時計設定画面

(P31を参照してください)

スクロール

上下で各設定を選択し
左右で設定内の項目を
選択します。

【端末検知機能】

糊付作業中に壁紙がなくなると、スリッター端末が壁紙の終了を検知して運転を自動停止させ、糊付量のカウントがストップします。

初期設定画面の「端末検知」をONにすると端末検知機能が働きます。スリッターが接続されていない場合は端末検知機能は働きませんのでご注意ください。



【端末検知後の寸動ボタンによる運転】

作業中に壁紙がなくなり、左記の画面が表示された後も、寸動ボタンでのみ本体を運転させることができます。糊付作業に戻る際には、新しい壁紙をセットしてリセットボタンを押してから、スタートを押してください。

△ 注意

実際の糊付量とカウント数には誤差が生じます。

△ 注意

スリッターテンションバーが閉じていない状態で運転すると、壁紙がセットされていても検尺車輪が回らず、左記の画面が表示されます。必ずスリッターテンションバーを閉じて糊付作業を行ってください。

【補正機能】

クロスの種類によっては、多少設定長さに対して長く出たり、短く出たりすることがあります。このような場合に、クロスの糊付け長さを割合で補正する機能です。



1. 初期設定画面右側の“補正”キーを押します。
この時補正値は左図のように0.0%になっています。
2. 画面右側の上下のキーで補正値を設定します。補正値は-2.0%～+2.0%の範囲で設定できます。
3. 決定キーを押すと補正値が入力され、糊付画面の下部に表示されます。

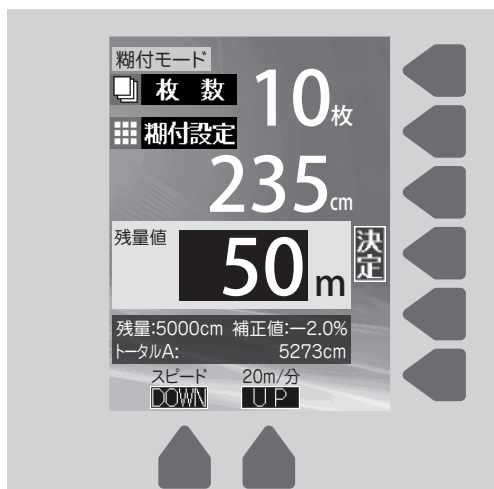
補正機能の解除

補正の設定値を 0.0% にして決定を押せば、補正値は解除されます。

【残量設定機能】

任意の長さの壁紙を糊付けし終えた際に、警報音でお知らせする機能です。

糊タンク内への糊の補給や、壁紙残量の確認を行う際に目安としてご利用いただけます。



1. 糊付画面右側の“残量”キーを押します。左図のように残量設定画面が表示されます。
2. パネルのボタン(数字)を入力します。(左図は50入力)
3. 決定キーを押すと、入力した値が残量として糊付画面下部に表示されます。
4. 糊付け作業を進めるに従い、残量の数値が減っていきます。
5. 残量の数値が0になったら警報音がなります。

残量設定機能の解除

残量設定画面を開きリセットボタンを押すと、入力してある数字が0になります。0で決定を押せば解除されます。

△ 注意

残量値が0になり警報音が鳴った後は、残量設定画面で機能を解除するか数値を再入力しないと、糊付作業をするたびに警報音が鳴ります。



【時計設定機能】

初期設定画面右側の“時計”キーを押すと、日付・時刻の設定を行えます。

画面下部の矢印キーでカーソルを合わせ、数値を入力していき、入力を終わったら決定キーで初期設定画面に戻ります。

メモ

時計は出荷の段階で時間を合わせています。

【糊タンク重量センサー】

重量センサー(P.16の第15図参照)で糊タンク内の糊の残量を検知し、糊の補給が推奨されることをお知らせする機能です。

設定方法

- 1 初期設定画面を開き、上下のスクロールで“ポンプ連動”に項目を合わせます。
- 2 左右のスクロールで使用する機能を選択し、決定ボタンを押します。

下限

糊タンク内の糊の残量が少なくなると、糊付画面左下にE(Empty)マークが点滅表示され、警報音でお知らせします。



△ 注意

重量センサーは粘度の違いや、糊付スピードの違いによって多少反応する重量が異なります。糊を供給する目安としてご使用ください。“下限”モードでは、Eマークが点滅すると、糊を投入するか初期設定画面で設定を“切”にしない限り、糊付作業のたびに警報音が鳴ります。製品出荷時はポンプ連動は“切”にしております。

△ 注意

原液タイプの糊を使用する場合は、コントローラの運転スピードを8m/分以下に設定し糊付を行ってください。運転スピードが8m/分以上で糊付を行った場合、重量センサーが動作する前に糊切れが発生する可能性があります。

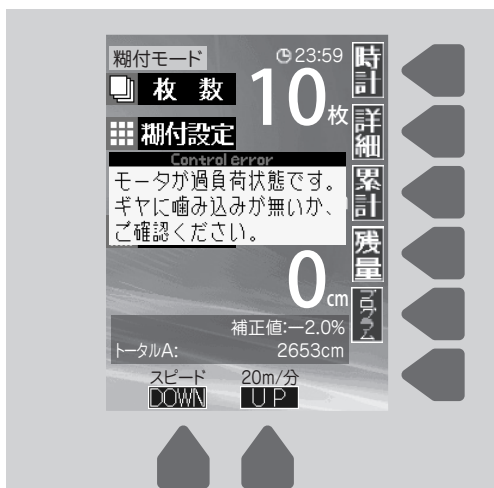
【エラー表示画面】



入力電圧異常

電圧が70V以下もしくは130V以上の場合、適正な電圧では無い為、左記エラー表示を点灯し、コントローラを停止します。

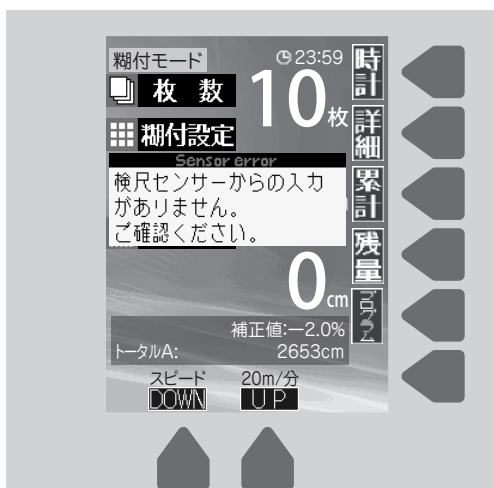
適正な電圧で再度作業してください。



過負荷異常

ギヤ・ローラー等に噛み込みや巻き込み等があり、コントローラのモータに過負荷がかかった場合、左記エラー表示を点灯し、コントローラを停止します。

原因を取り除き再度作業してください。



センサー読み込み異常

糊付け運転中において、上部フレームのパチン錠が閉められていない場合、コントローラが本体に正しくセットされていない場合、あるいはセンサー部分に異常があった場合に左記エラー表示が点灯します。

(本体側センサーケーブルに水や糊が付着していないか等も確認してください)

本体部の掃除・手入れ

7

掃除・手入れの程度は機械の性能と寿命に大きく影響します。糊付作業終了後は、以下のようにして掃除及び手入れを行ってください。

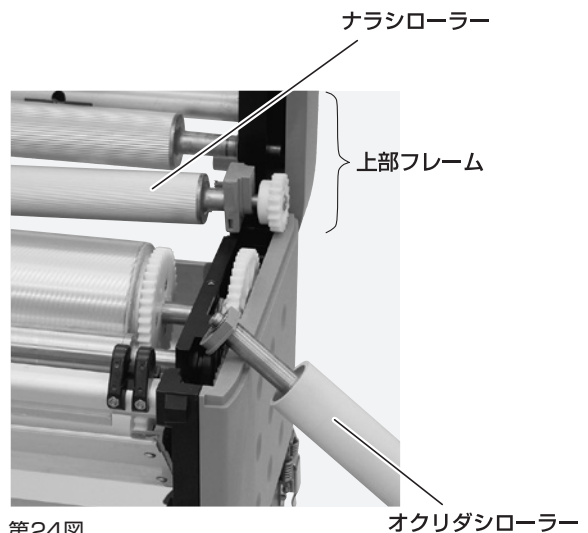
- ①機械本体を空運転させながら、糊厚調整バーを絞って糊ローラーとドクターローラー表面の糊を糊タンクに落とします。
- ②糊付機械を停止させた後、上部フレームを開き、コントローラー、スリッター、オクリダシローラー、ツメステーフ及びナラシローラーを機械本体より取り外してください。(第24図参照)
- ③取り外したツメステーフ及びナラシローラーは、スポンジ等を使用して水洗いしてください。
- ④機械本体より糊タンクを完全に引き出し、糊タンクの中の糊を糊バケツに戻します。
※糊タンクを引き出す際に糊ローラーより糊が床に垂れることがありますので、予め床に養生しておいてください。
- ⑤糊タンクから糊上げローラーを外し(P34第25図参照)、スポンジ等を使用して糊上げローラーを水洗いしてください。この段階では、糊タンクは完全に洗浄せず、ゴムベラで掻き落せる分だけ糊を落とします。
- ⑥糊上げローラーを外した状態で糊タンクを機械本体にセットします。
- ⑦糊厚の目盛りを4～5まで開いた後、手で糊ローラーを回転させながら、糊ローラー及びドクターローラーをスポンジ等で水洗いしてください。(P34第26図参照)
- ⑧再び機械本体から糊タンクを完全に引き出し、糊タンク内を洗浄します。

⚠ 警告

機械本体を洗浄するときは、コントローラー、スリッター及びオクリダシローラーを取りはずして行ってください。ローラーの間に手や衣類を巻き込んだり、スリッターの刃物で手を切ったりするなどの思わぬ事故を未然に防ぎます。

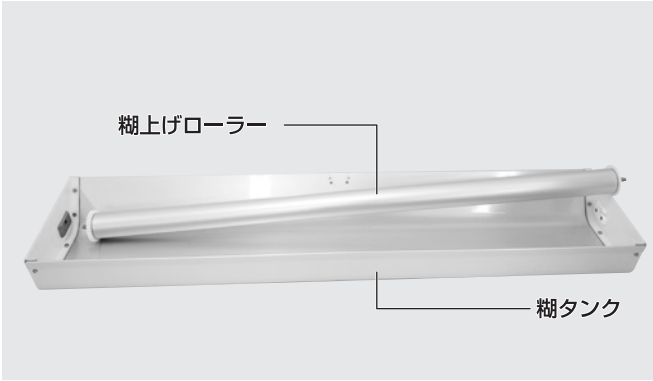
⚠ 注意

糊ローラー、ドクターローラー表面の糊は完全に除去してください。薄い膜状に糊が残っているだけで糊付け状態が悪くなる場合があります。また、オクリダシローラー、検尺ローラーについても糊が表面に残っていると、表面にひび割れを起こし、正常な運転をしなくなる恐れがあります。

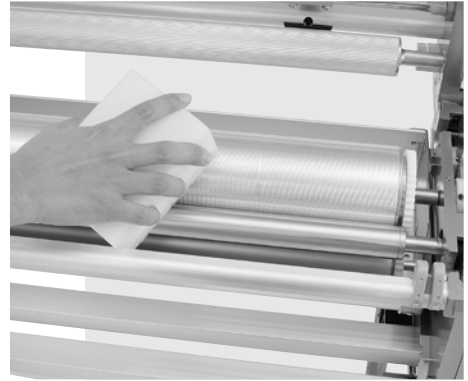


第24図

オクリダシローラー



第25図



第26図

- ⑨ 糊上げローラーを糊タンクに取付け、機械本体にセットします。
- ⑩ スリッター、コントローラー、オクリダシローラー、ツメステー及びナラシローラーを機械本体に取付けてください。
- ⑪ 洗浄後、乾いた布等で水分をよく拭き取ってください。また、脚やフレーム等に付着した糊もきれいに拭き取ってください。



第27図

△ 注意

センサー基板の部分には水や糊をかけないようにして下さい。万一かかった場合は、故障の原因になりますので、雑巾などで拭き取り乾燥させてください。

△ 注意

機械本体を洗浄するときは、コントローラーとスリッターを取り外して行ってください。第27図のようにホースなどで水を直接コントローラーやスリッター等に掛けないようにしてください。汚れを落とすときは固く絞った濡れ雑巾をご使用ください。水が掛かった場合には水分をよく拭き取ってください。

メモ

定期的にローラーの軸受部やギヤ部にグリスを注入したり、ギヤの歯に固まってついた糊を落としてください。運転中の異音の発生を防ぐとともに、常に機械をスムーズに運転させることができます。

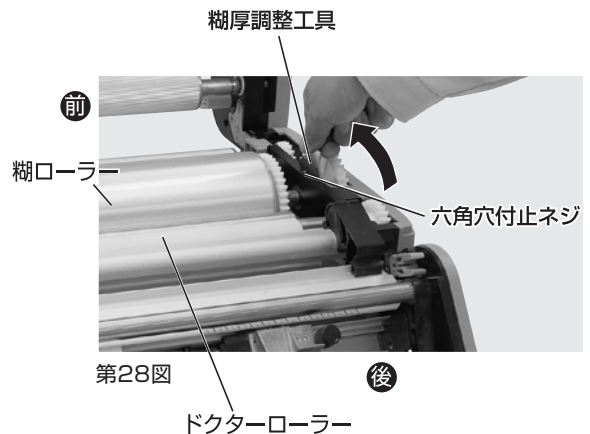
本機には、糊厚調整工具、ピンチ圧調整工具(ソケット、L型レンチ {2.5 mm, 3.0 mm}) が付属されています。本機の調整点検には、ドライバー(+)等が必要ですので、事前に市販の工具(ドライバー等)を準備してください。

1. 糊ローラーとドクターローラーのクリアランス調整

【糊が絞れないときの調整】

(糊付機械に糊が入っていない状態で行うと容易です。)

- ①左右とも糊厚調整レバーを目盛0の位置にあわせ、糊厚ツマミを締めます。
- ②左右とも六角穴付止ネジをL型レンチ(3mm)で緩めてください。
- ③第28図のように、糊付けギヤと軸受板の間にある糊ローラーブッシュ六角部に付属の糊厚調整工具をはめ込み、矢印の向きにゆっくり動かしてください。糊ローラーが移動します。
- ④ローラーを手で回しながら、糊ローラーとドクターローラーのすき間が0mmの位置で、六角穴付止ネジを確実に締め込んでください。



【左右で糊付量が違うときの調整】

(糊付機に糊を入れた状態で行うと容易です。)

例：左側を右側と同じ目盛にあわせる場合

- ①左右とも糊厚調整レバーを同じ目盛にして、糊厚ツマミを締めます。
- ②左側の六角穴付止ネジを緩めて、第28図のように糊厚調整工具を使って、糊ローラーを移動させます。
※矢印の向きに動かすと糊が絞れ、反対の向きに動かすと糊が多くつくようになります。
- ③割込みスイッチで運転させて、糊量を確認してください。
※壁紙等で実際に糊付け確認すると、より正確に調整できます。
- ④左右のバランスが同じになったところで六角穴付止ネジを確実に締め込んでください。

⚠ 警告

コントローラーは取り外した状態で調整してください。

⚠ 注意

糊ローラーとドクターローラーは強く接触させないでください。接触させるとローラー表面が傷つき、糊付け状態が悪くなります。

⚠ 注意

左右の糊付状態を確認する時は、必ず上ブタを閉めてください。
上ブタが開いていると、実際の糊付状態と異なる場合があります。

2. 検尺ローラーのピンチ圧調整

(クロスが蛇行調整・クロス原反があがらないとき)

クロスが蛇行する場合やクロス原反が上がらないときは、付属のソケットで本体軸受板(3、4)の六角ナットを緩めてから、ピンチ圧調整用バネ止メネジ(六角穴付)をL型レンチ(3mm)で回してピンチ圧を調整してください。(第29図参照)

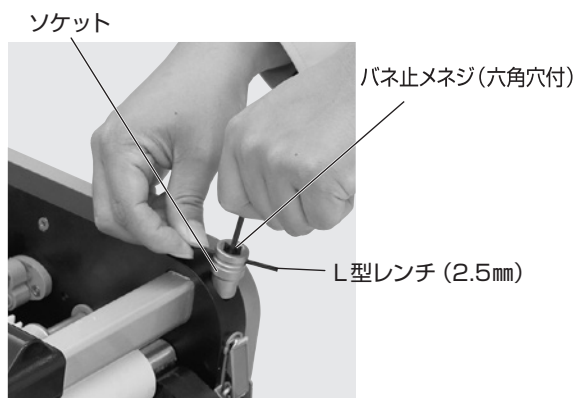
【例】

クロスが、糊付機械正面からみて左側に寄って出る場合

糊付機械正面からみて左側のピンチ圧調整用バネ止メネジ(六角穴付)をL型レンチで緩めてください(時計逆方向)。または右側のピンチ圧調整バネ止メネジ(六角穴付)をL型レンチで締めてください(時計方向)。また、上記調整はクロス(糊付けなし)を通して行うと容易に行えます。調整が終わったらソケットで六角ナットを締めてください。

メモ

締めすぎるとクロスが糊付け長さは設定より若干長めに出るようになります。
また締めすぎ、緩めすぎてもクロスを引き上げ能力が落ちます。



第29図

スリッター刃物の交換方法

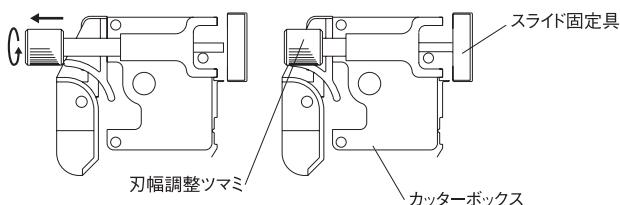
9

スリッターの刃物は、消耗品です。スリッターの切れ味が悪くなったら刃物(カッターボックス)を交換してください。厳密に修理する場合は、一旦当社へスリッターを戻していただき、詳細な点検調整を行ってください。

スリッターの刃物の交換方法

1. カッターボックスの外し方

- ① スリッターを本体より外してください。
- ② 刃幅調節ツマミを時計の針と逆方向に回し、後ろのスライド固定具から外してください。(第30図参照)



第30図

警告

刃物を交換するときは必ずスリッターを本体から取り外して行ってください。

警告

本製品は刃物に触れることがないように安全には配慮しておりますが、刃物で手を切ったりしないよう取扱いには十分注意してください。

警告

カッターボックスを分解しないでください。手を切る恐れがあります。

注意

スリッターを本体より取り外す際は、事前にスリッター電源コードをコントローラーより外してください。

- ③ 軸受板内側より、軸受カバーを固定している皿ビス(左右・各2個)を(+)ドライバーで緩めて軸受カバーを外します。

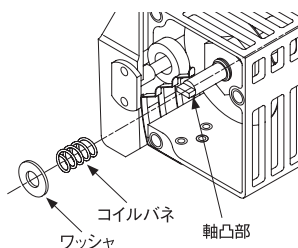
(第31図参照)

- ④ 第32図のように、軸受け板に空いた穴からドライバーを通し、カッターボックスを固定しているナベビス3個を(+)ドライバーで緩め、カッターボックスを分離してください。
※第33図は、カッターボックスを分離した状態

- ⑤ カッターボックスをスリッターレール内から取り出してください。

2.カッターボックスの取り付け方

- ① カッターボックスをスリッターレールに挿入し、軸にコイルバネ、ワッシャーを順にはめてください。(第34図参照)



第34図

- ② カッターボックスをスリッターモーター部に取り付けます。カッターボックスの軸をスリッターモーター部の受け穴にはめ込みます。

(軸の凸部を穴の溝にはめ込む)。

この時、(+)ドライバーで軸を少しずつ回しますと、確実にはめることができます。

- ③ ナベビス3個を締めて、カッターボックスをスリッターモーター部に固定します。

- ④ 軸受板を元の位置に戻し、皿ビスおよびトラスビスを締めてスリッターレールと軸受板を固定します。

- ⑤ 皿ビス(左右各2個)を締めて軸受カバーを軸受板に取り付けます。

- ⑥ スライド固定具を動かし、刃幅調整つまみの後ろに合わせ、締め付けてください。

△ 注意

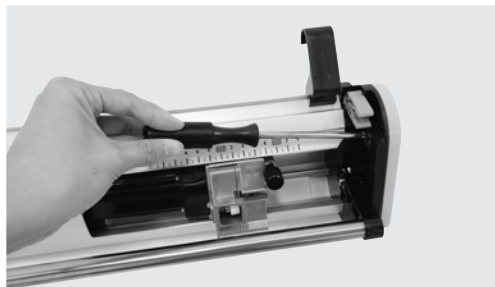
セラミッククロス、無機質クロス等、壁紙の種類によっては、極端に刃物を傷めますので注意してください。

メモ

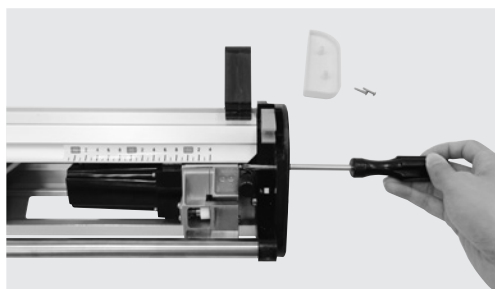
スリッターの刃物は、3分間程度空回ししますと切れ味がよくなる場合があります。

△ 注意

右側(コントローラー側)の軸受カバーを外す際、スリッター電源用コードを傷めないよう注意してください。



第31図



第32図

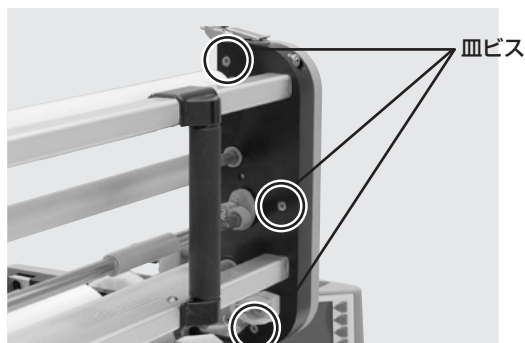


第33図

センサー基板とは、糊付の際に、引き出した壁紙の長さの検知を担っている部品です。センサー基板には検知を行える部分を2か所用意しており、一方が故障した場合でも、基板部を反転させて対応できるようになっています。基板部の反転を行う際は、下記の手順に従って行ってください。

本体センサー基板の反転手順

- ① 本体の上フタを持ち上げ、コントロール側の軸受けにある皿ビス3本を外します。(第35図参照)
- ② 軸受カバーが外れ、内蔵されたセンサー基板を確認できるようになります。センサー基板を押さえながら、ナベビス2本を外します。その後、センサー基板を矢印の向きに180°回転させます。(第36図参照)
- ③ 外したナベビスを、同じ位置に付け直します。
- ④ ①で外した軸受カバーを再度取り付けます。



第35図

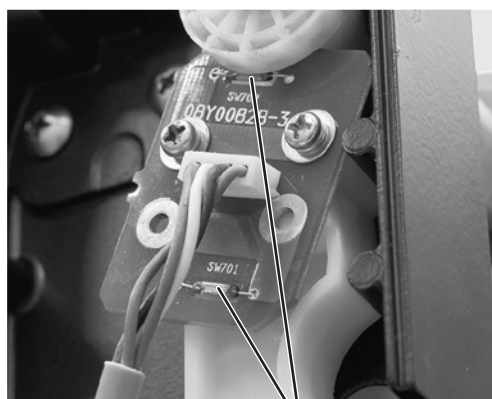


第36図

センサー基板 ナベビス

⚠ 注意

センサー基板には“リードスイッチ”が2つあります。作業中はリードスイッチに衝撃を加えないように気をつけてください。(第37図参照)



第37図

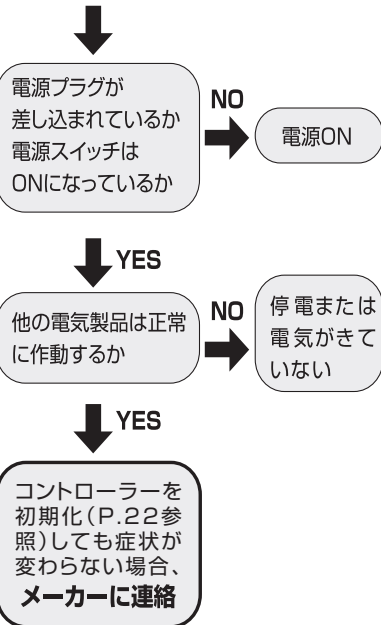
リードスイッチ

故障かな?と思ったら

11

本機に異常が生じた場合は、次の手順に従ってチェックしてください。

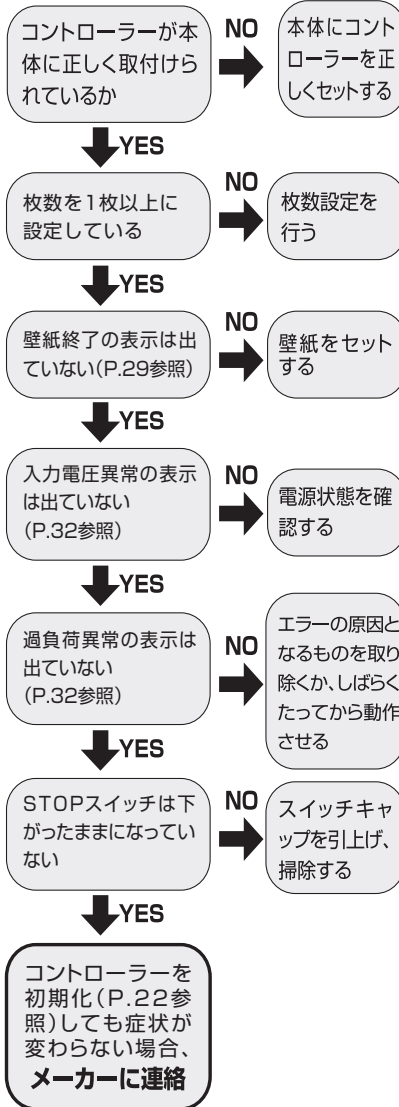
コントローラーの画面が表示されない



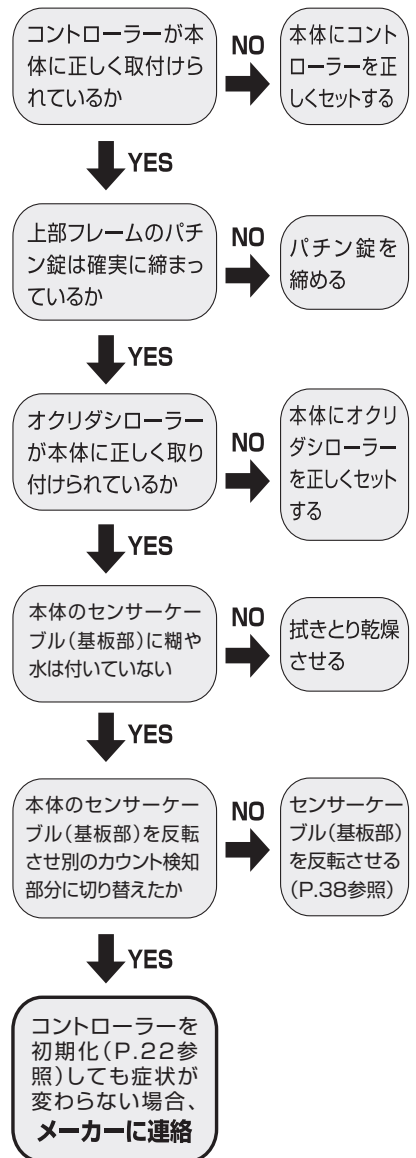
△注意

電圧低下、電圧変動、ノイズ等によりコントローラーが正常に動作しない場合がありますのでご注意ください。

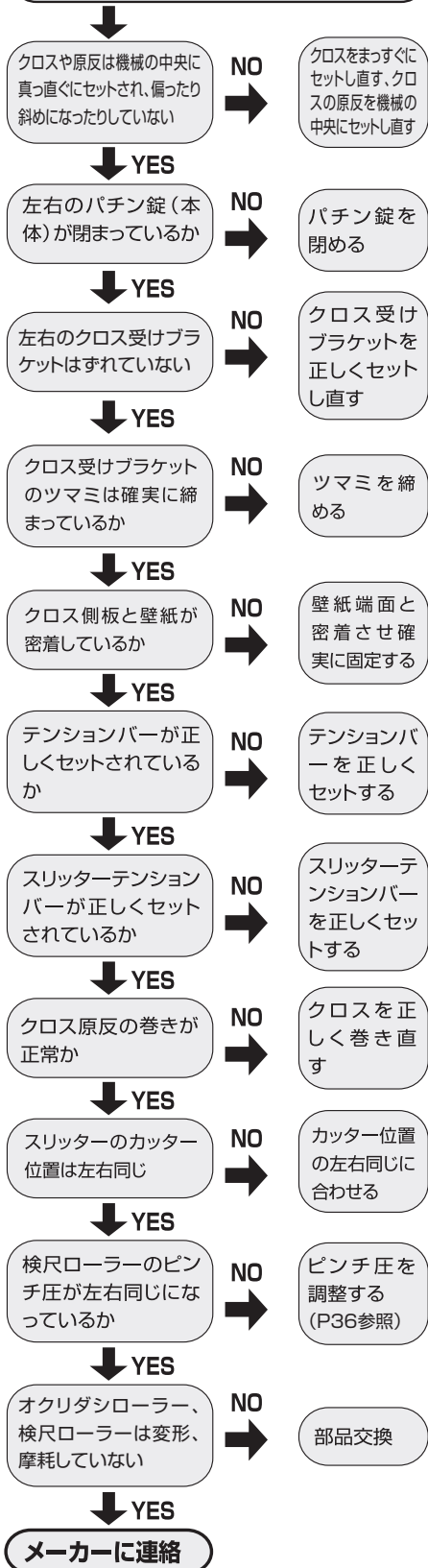
モーターが動かない



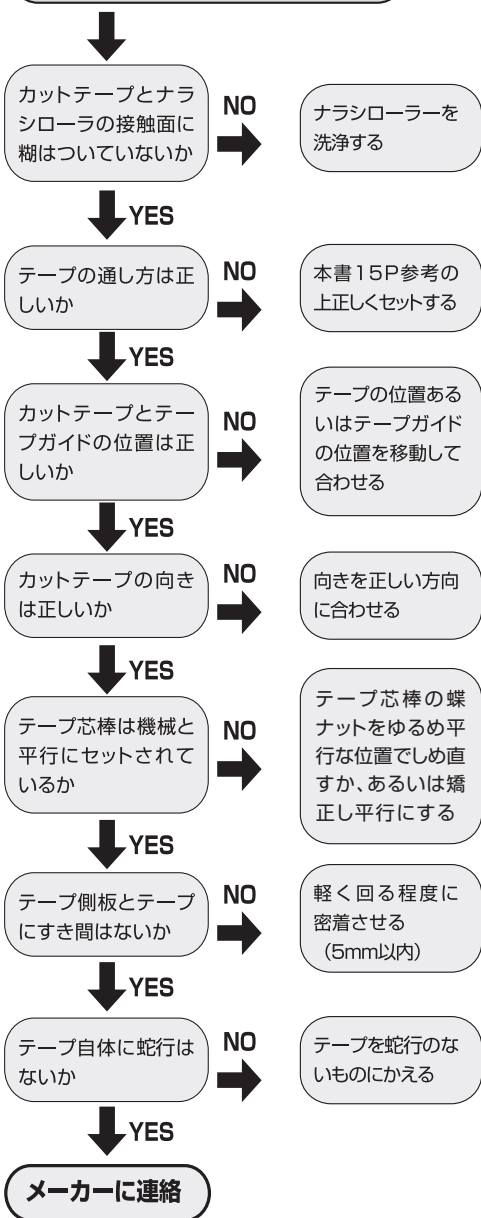
糊分量表示がカウントしない センサー読み異常の表示が出ている(P.32参照)



クロスにしわが発生する クロスが蛇行する



カッターテープが蛇行する だぶつく

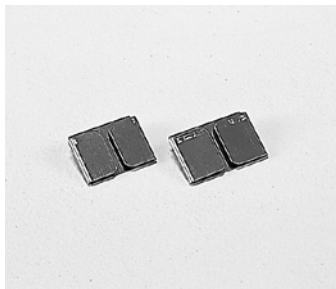




404-955 NEWコントローラー収納ボックス

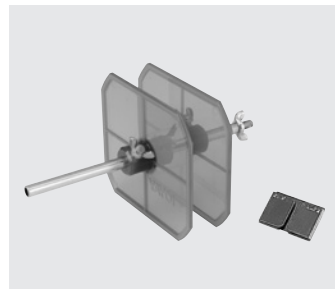
※中仕切り付の高強度コントローラー収納ボックス

※コントローラーや付属品の収納、運搬に最適です。



400-251 テープガイドA38mm巾

400-252 テープガイドA45mm巾



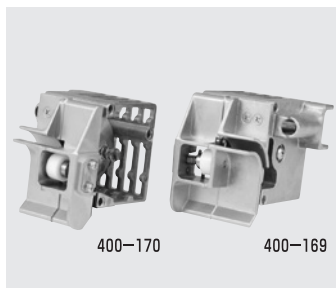
400-253

カットテープ取付キットA



316-524 PEカバーシート(3枚入)

※棚付機械の本体を覆うPEカバーシートです。



400-170

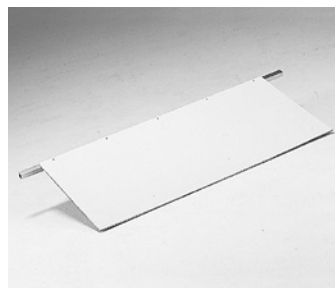
400-169

400-169

カッターボックスセット(左)SP・リサイクル

400-170

カッターボックスセット(右)SP・リサイクル



405-806 クロス受け板



404-918 NEWカバーシート

※現場のほこりをかぶらず、糊の乾燥防止にもなります。



409-840

φ100mmキャスターF(ストッパー有)

409-841

φ100mmキャスターF(ストッパー無)

※薄型スパナ(19×21mm)を使用し、交換できます。

●本体

(本体カバー、クロス芯棒、テンションバー、付属品の重量は含んでおりません)

重 量	32.2kg (本体部 22.4kg 脚部 9.8kg)
寸 法	全幅 1,220mm (コントローラー装着時 1,323mm)
	奥行 450mm (本体部 265mm)
	全高 845mm (脚折りたたみ時 430mm)
有効糊付幅	1,050mm
糊タンク容量	約14リットル

●スリッター

重 量	4.2kg
寸 法	全幅 1,207mm
	奥行 137mm
	全高 162mm
有効裁断幅	780~1,040mm
電 源	コントローラーから供給
出 力	20W

●コントローラー

重 量	2.9kg
電 源	AC100V 50Hz/60Hz
出 力	33W (最大180W)
消費電力	220W
糊付スピード	4~20 m/分
使用温度範囲	0~40℃

※製品内容・仕様は改良等のため、予告なしに変更することがありますので、予めご了承ください。



本 社 〒939 - 1272 富山県高岡市下麻生4649 TEL(0766)36-2800(代)

フリーダイヤル：0120-303-841